



卒業してからも何年経つのでしょうか。

「高校生」のあの頃は、いつも自由で楽しかった——

今、皆「大人」になって、それぞれのフィールドで活躍しています。

そんな同窓生34名の近況を報告します。

人生十二分の？

戸野部勝司

昭和41年卒



先日、たまたま岐高の前を通って、びっくりしてしまった。アノ屈ジヨクの舞台がすっかり変わってしまった。すばらしくモダンな校舎となっていた。周辺の民家がスラムに見える。

私達のころは学区制ではなかったので全県下から秀才が集まった(今は知らない)。北海道、沖縄産やらの材料を使った『黒』こま黒糖きな粉』を製造している会社「KKえがお」が熊本のナンタラ市にある…といったような広域団体だからか？もちろん岐阜県はずっとスケールが小さい、が全国で五番目？の広さを誇るといえばバカにできない。どうしてこんなに頭のいいやつばかりがいるんだろうと思った。最初の中間テストでは後ろから勘定する方が遥かに早かった。野球部に入ったが、当時、岐高だけの特権であった長髪が禁止でなかなかピンク映画館には入れなかった。その代わりといつてはナンだが、練習は

厳しく、OBはうるさかった(もしOBの先輩がこの原稿を見つけたら無視していただきたい)。

二年の秋季大会には東海大会まで行った。静岡高校に一回戦でコールド負けした。それでも翌年が岐阜国体という関係で、甲子園出場の誘いがあった、と云う。はつきりしないが、故・溝渕部長がそれを蹴った、らしい。正解だった。エラーか三振かは避けられない実力で、柳ヶ瀬などウロツこつものならどんな迫害を受けていたか知れたものではない。

初恋も経験したが、手も触れなかった。保健室のナンとかという女の先生が印象に残っている。美人で、やさしかった。ズル休みの時には世話になった。他の先生は怖くてとてもことではないが親しくなれなかった。三年担任の小林先生は別口であります。壮絶な癌との闘病生活を送っておられる。ガンバッテというよりない。

幸い大学にはストレートで合格した。くだんの親父のヨッパライぶりに辟易したせいで、一生涯は飲まないと固く誓っていたが、新入生歓迎コンパで一気飲みを強要され、それから今日までアルコールが切れたことがない。一つ留年？して、それから三浪して司法試験に受かり、爾来三十五年間弁護士をやっている。人間を

やっている期間が一番長い。同級生の写真館某が、FやGがやっているのなら分かるが、トノベが弁護士であることには納得がいかない、と云ってくれた。人間、運があることを知らない妄言である、と云わなくてはならない。

柳ヶ瀬にはよく飲みに出かける(た？)。いつものことながらよく失敗する。八割を超えていた喧嘩の勝率も三割を切った。モスキーノ級の元世界チャンピオン(？)後から知ったには一発でぶちのめされた。暗がりでもタシカどこかでお逢いした女性(美形)とすれ違ったとき挨拶をした。が、完璧に無視された。それもそのはずで、その当時受任していた離婚調停の相手方だった。

十年前前PSセミナーの講師を依頼された。酒が入らないと人前では喋られないことを理由に固辞したが、相手が顧問先の社長だったこともあり、事前飲酒可という条件で引き受けた。一年生の二クラスを担当したと記憶している。弁護士と云う職業はすばらしいものだ、と力説し、それなりに熱心に聴いて貰えたと感じたが、その後の岐高出身の法曹が飛躍的に増加したという話を聞かないところをみると、失敗だったのかも知れない。

(前述のきな粉団子は美味しい。)

ライフワーク

伊藤 壽

昭和43年卒



十数年前「信長公記」(織田信長の一代記)を読む機会を得た。本書は、太田牛一(柴田勝家、織田信長、丹羽長秀、豊臣秀吉、前田利常に仕えた人物)が日記を元に信長の一生涯を記したものであり、信憑性が高く、信長研究の第一級資料と言って過言ではない。

但し、著者が晩年に記述したものであるため、信長の前半生、岐阜へ移る前の記録には不明部分が少なくない。従って、信長の出生日、出生地等を確定する資料とはなり得ていない。

信長の出生日については、国内資料が殆ど存在しないため、ルイス・フロイス著「日本史」の記述内容から逆算する説が多い。

しかし、当時の暦法が複数存在したことから、五月十一日、同十二日、同二十八日説に分かれている。出生年については、多くの資料が一致していることから一五三四年(天文三年)説が有力である。

他方、出生地については、石田泰広著「織田信長と勝幡城」など精読すると主に三説が存在する。一番多くの書で主張されているのが「那古屋城説」である。これは「寛政重修諸家譜」等を依拠としている。次いで「古渡城説」。これは大正、昭和初期の研究家によって主張され「家譜」「織田系図」「織田軍記」「名古屋合戦」等の文献を根拠としている。さらに「勝幡城説」が控える。

前二説に較べると新しい説で少数派ではあるが、地域伝承や「尾州出生侍覚書」「織田信長系譜」等をその根拠としている。

私は「信長家臣団研究会」に入会し、更に徹底して調べようと意欲を燃やしたが、折から職場環境が一変し、仕事に忙殺されることとなりやむなく後年のライフワークとせざるとえなかった。

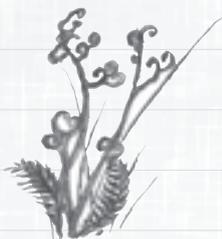
昨年三月二十数年の高校教員生活を終え、ついに退職を迎えた。四月からは、岐

卓歴史資料館に勤務することになった。念願叶ったりである。

そこでは、「青木久太郎家」「山田忠行家」「堀一郎家」の庄屋文書(「奉公人送一札」「送り手形」「宗門送り」「覚」「宗門改帳」等)を目にするようになった。

日本史教員として、近世江戸期の庶民(主に農民)の、ものの見方、考え方を教えてきた。しかし、今も目にし整理を続けている庄屋文書から、これまでの私の理解がいかに一面的皮相的であったか思い知らされている。紙幅に限りがあり尽くせないが、生活行動範囲の広さ、広域に及んでいた結婚の実態、検見法による年貢高算定の際に台風被害の最も甚大な場所限定して、代官所役人に見せ年貢減免に成功した記録など、したたかな庶民の智慧を垣間見せてくれる。

迂遠のように見えながら、古文書読解は、暫し伏流していたらライフワーク取組への新たな供給水源となつて水音を立てている。



ターミネータは作れるか

岩間 憲三

昭和43年卒



二〇〇七年夏、”ソ連の戦車はどんなふう
に街を占拠したのだろうか”と思いながら、
まだ暑さが残る夕刻のブタペストを歩いて
みました。その日、ユレツ氏は一九五六年
の蜂起の後、アメリカにわたり、ベル研で
仕事を始めました”という話があり、私は、
なおさら当時がどんなだったかを思い浮か
べたかったからです。

時間をさかのぼること四十年ほど、一九
六六年秋だったか、高校の現代文の教科書
に、私にとってはいまだに分からない文が
載っていました。”IQ130の人が、IQ
130の計算機を作れるとすると、計算機
はIQ130を超えて進化するだろう。”私
は理解できず、この文は変ですよ”と、岡本
先生に聞いたのです。返答は、それが弁証

法的発展だよ”でした。その後、長い間、文
も返答も忘れ去りました。

一九八五年になって、ペンシルバニアにい
た私は、人の視覚に関する研究を始めまし
た。そこで、ユレツという人のいくつかの仕
事を知ったのです。ひとつは立体視について
です。人の視覚は、右目と左目から別々に
入ってくる情報を重ね合わせることで対象
までの奥行きを求めます。ユレツは、”右目
と左目から入ってくる情報を処理する過程
のどの段階で重なるか”を解き明かすため、
重要な発明をしました。それは、ランダム
に点を並べた一枚の図で、読者も一度は目
にしたことがあると思います。もうひとつ
は、視覚がテクスチャ分割をどのようにす
るかについてですが、彼はひとつの仮説を立
てていました。

私は、一九八六年には、その仮説を否定
せざるを得ないと考え、一九八七年には、新
しい説をたて、説が確からしいと主張するた
め計算機プログラムを作って実験をします。
そして、後に結果を発表しました。一九九
〇年代になると、私は視覚でなく力覚の利
用を、ロボットを使って調べながら知能全

体に興味を広げていきます。

そんなころ、高校時代の現代文が浮かん
できました。そうは言っても生活費を得る
必要もあり、また、課題が途方もなく難し
く、ほとんど進みませんでした。二〇〇〇
年代は、東京で商売をやりながら、高校時
代に出くわしたことを思い出しては課題を
解く手がかりを求める時が過ぎます。

そうして二〇〇七年、ブタペストへは、”ロ
ボットの自由意思”と題した発表に出かけ
たのですが、そこでユレツ氏のことを聞い
たのでした。”ソ連崩壊後の一九九三年ブタ
ペストにもどって晩年を過ごし、二〇〇三
年にこの世を去った”と。同じころ、この間
に考えていたことを記して岡本先生に送り
ましたが、他界された後でした。二〇一〇
年になると、”主観をもつ計算機”を説明す
るためのプログラムを作り、今年になって
からは、”発見をする計算機プログラム”を
部分的に作り初めました。いずれ誰かが、
ターミネータを作る、つまり”弁証法的発
展”をおこすかもしれない期待と危惧を
しますが、そんなに簡単ではないだろうな
とも思っています。

岐高林間学舎との縁

奥長さゆり

昭和43年卒
(旧姓：辻)



私が林間学舎を初めて見たのは昭和四十二年の夏休み前、岐阜高校の校長室である。当時私が所属する二年五組は掃除担当場所に校長室が割り当てられており、私は掃除当番で校長室の掃除をしている時に来春完成するという林間学舎の模型を見たのである。当時の校長である深井重二郎先生が掃除当番の私たち数名を模型の前に呼んで「上宝村に建設される林間学舎だが、使えるのは来年からだから君たちには使ってもらえないなあ。いずれ同窓生にも使ってもらえるようにしたい。」というようなことをおっしゃった。屋根の端が反り返った斬新な食堂と一見八階建て実は四階建てという宿泊棟の模型はとても斬新でオシャレに思え、自分には縁はないだろうと思えるその学舎

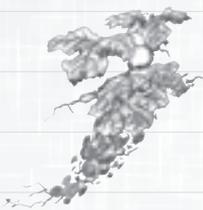
が北アルプスの麓に立っている姿を想像して、一度でよいから行ってみたいと思ったものである。

昭和四十七年大学を卒業し、私は岐阜県の高校教員に採用された。その年、新任の高校教員の夏の研修が岐高の林間学舎で行われることになり、図らずも林間学舎に宿泊できることになった。国道四十一号線をバスで北上し、神岡町まわりで延々五時間強もかかってやっと到着した。目の前にした学舎は当時では珍しいコンクリートの打ちっ放し、食堂の壁面はほとんどガラス窓とガラス戸の開放感あふれた建物であった。学舎前の広場には白樺の木が何本も生えていて、その向こうには錫杖岳の岩肌が見え、周囲からは温泉地特有の硫黄の匂いが漂っていた。同じ岐阜県内とはいいながら、濃尾平野の中の岐阜市の風景とはまるで違つ飛騨地方の自然を大きな驚きとともに体感した。

その後、私は昭和五十一年から十年間を各務原高校に、昭和六十一年からの五年間を岐阜高校に勤務し林間学舎と関わることになった。各務原高校は創立当初は岐阜

高校の姉妹校のような雰囲気があり、一年生の夏休みは八月の初旬から岐高林間学舎を借りて三泊四日の林間学舎活動を行っていた。私は引率教員として四、五回林間学舎活動に参加した。学舎前の飯盒炊さん、西穂高独標までの登山、キャンプファイヤー、雨天の場合の食堂でのキャンドルサービスなどである。岐阜高校勤務時にも二回学舎生活を経験している。岐高の二年生の有志が参加する林間学舎の引率をした時には焼岳の中腹の中尾峠まで登り、観光地ずれしていない佇まいに感激したものである。

こんなわけで岐高林間学舎に七、八回も行くことになり、ずいぶん縁が深かったものだと今になって感心している。お花畑から見た上高地と大正池、雲海の彼方に見た富士山のシルエットや白山の姿、学舎前の夜空を見上げて「こんなにたくさん星を見たことがない。」と言った女生徒の言葉など林間学舎には忘れられない思い出がいっぱいである。



私と英語の原点

落合友紀子

昭和43年卒
(旧姓：尾関)



私が岐阜高校に入学をしたのは昭和四十年、日本が経済成長の歩みを速めていた東京オリンピックの翌年でした。入学してまず驚いたのは英語の課題の多さ。当時の岐阜高生必携は通称「赤単」(赤尾好夫の単語集と山貞(山崎貞著「新英文解釈研究」)。

毎日赤単を片手に憶えながら二十分、無口になって友達と通学したものでした。そして山貞の例文にはディケンスやマーク・トウェインなどの名が並び、本物の英語を学んでいるという優越感のようなものを覚えたのを思い出します。ちなみにこの山貞は、初刊から百年たった二〇〇八年の終わりに復刻版が出版されたようですが、これを友として受験戦争を潜り抜けた夥しい数の人達のノスタルジーが後押ししたのだらうかと推測したりもするのです。

このように当時や speaking, listening の欠如した偏った英語教育だったことは否めませんが、そんな詰め込み英語のしつかりとした土台のおかげで、大学を経てカルチャーセンターの英語講師等、私と英語の関りは今に至っております。そのハイライトの一つは、十年余り前から所属しているコミュニケーションを学ぶ団体 International Training in Communication (ITC) での貴重な体験です。このITCは一九三八年にアメリカで設立、世界の会員数は三三〇〇人程。各クラブが毎月例会でコミュニケーションの訓練を行っており、一方でクラブ・地域・全国レベルの会合や交流も盛んに行われています。そして日本で毎年、世界レベルでは隔年、スピーチコンテストが行われますが、神戸で世界大会が開催された折、私はこの英語のコンテストに出場致しました。コンテストの三週間前に与えられた三つの論題の中から一つを選び、副題をつけて五分から八分間のスピーチを競います。普段多くの人の前でスピーチをする機会がほとんどない上、英語のスピーチという事で最初は大変緊張しましたが、幸運にも東海地区の力

ウンスルレベル、全国大会を勝ち進み、日本代表として世界大会に臨みました。スピーチの内容は、三つの論題から「challenge」(難題・課題)を選択し、「amid the globalization of the world」(世界がグローバル化する中で)という副題をつけて、極めて日本的な表現「済みません」に着目しました。異文化間での誤解や不理解がグローバル世界の摩擦を生みやすいという内容のもので、大会では世界各国からの三十人程の代表が三グループに分かれ予選を行い、計六名が選ばれて決勝が行われました。私は残念ながら決勝に残ることは叶いませんでしたが、「周りで飛び交う『済みません』の意味する日本の心が少し理解できた」という外国の方々の声が嬉しく、全てを尽くした安堵感と伴に満足感に満たされた瞬間でした。さて今やインターネット、更にスマートフォンが登場でコミュニケーションの形態も多様化し、世界が劇的に変わりつつある——そんな時代の岐阜高生の英語必携は一体何なのだろうかと思いつつ、あの山貞復刻版を今一度手にしてみたいと思うこの頃です。

政治と民主主義を 考える

驚見 守昭

昭和43年卒



岐阜高校を卒業して、もう？早？四十二年が過ぎました。楽しくそして激しかった大学生活、結婚までのびやかな時代、バブル経済の最盛期と平成の大不況を見てまいりました。

政治に携わる仕事について、様々なことが見えてまいりました。その中で最大のものには民主主義についてです。

民主主義とは、デモクラシーの日本語訳で、集団の構成員全員が権力者であり、全体の意思決定は、皆の合意により行うという政治体制のほゞです。

現在果たしてそうなっているのでしょうか？実際の権力者というと、説明上は国民ですけれど、どこにもそのような状態に

なっておりません。

意思決定も皆の合意の上により行っているように見えません。権力も意思決定も国民全体のものにはなっていないように見えます。

民主主義の意思決定は多数決です。でもその中に少数意見の尊重が図らなければならぬと思いませんか？。市民の皆さんの意見は、多種多様です。ある事柄で多数派であると思ってもその中には、べつの事柄での少数派も交じっているのです。少数派をすべて切り捨てて行けば、多数派も少数派になってしまいます。ゆえに、少数派の意見を尊重することが重要になってきます。

民意という言葉がありますが、何をもって民意というのでしょうか。報道機関は世論調査という手法をとっていますが、その世論を構成しているのが報道であると考えられます。

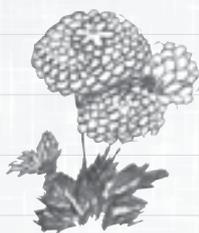
報道による世論操作ということを行ったのは、「ナチス・ドイツ」の宣伝省ゲッペルスであり、「ペン」は剣より強し」と言いながら、「フルサーパーク」に屈した戦前のドイツ

の報道機関もあります。

戦前の日本の報道も似たような構図であると思っています。戦争による熱狂により、自社の販売を強化しながら、軍部におもねり、右翼に脅され、戦争賛美の報道の一翼を担わされてきたわけです。

現在の報道を見ますと、「政治報道の劇場化」「日本全体の「ヘキサゴン化」を図っているように見えます。つまり、「何をばかなことを行っているのだ」という方向の報道に見えます。もう少し話相手の心情を汲んで、「説明を加える」報道をすれば全体の構図が判りやすいのかなと考えます。ことばを変えて言えば、少数意見の尊重にもとづく説明が足りない一面を見る思いがあります。

政治の前面に立つ側も、主旨の丁寧な説明と、不利益者に対する配慮を行う必要があると思います。相手を思い、いづくしみながら話をすれば、理解しあえる政治が始まると考えます。



縁はいなもの、おつなもの

長谷川比登美

昭和43年卒
(旧姓：木野)



多数の関係者の中から寄稿する機会を得られたことに感謝するとともに、「こうなったのもなにかの「縁」と、表題のようなことを思いつくままに書いてみたい。

若い頃はまったく感じなかったが、今振り返ってみると大学、会社と交際範囲が広がるとともに、それは齢を重ねることになるのだが、同窓のありがたみを知ることになった。

高校では、自分とは人種が違うのではないかという人物もあり、新しい世界が開けたようだった。この感覚は、その後参加した三週間ほどのセミナー旅行でも実感したことがあり、だから、異業種、世代を超えた交流って大切なんだなあと思心したことが思い出される。

次に大学。地元で進学したこともあるだろうが、高校の先輩方がいっぱいだった。当時は歓迎会といった飲み会も盛んで、酒の味を教

えてもらうなど楽しいスタートを切ることもできた。下宿に泊めてもらったり、授業の受け方、教授のくせ、恋愛関係等々、いまだに「ガールズトーク」に夜は更けていった。

先輩を知るところからまた新しい知り合いができるので、人の輪が広がる。そんな人の輪から、結婚相手も、子どもの保育先も見つけることができ、現在の私がある。

例えば、保育。今から三十年前は産休明けの乳児を預かってくれる保育所の情報はなく、もはや退職するしかないという覚悟を決めていた。そんなとき主人の用事で訪ねた先の先輩との雑談で「そいえばうちの看護婦さんが預けているところがある…」と情報を得た。

一つ目のラッキィ。さっそく、訪ねてみると「来年度からならなんとか…」とのこと。しかし、十一月が予定月なので、やっぱり無理。でも「ダメもと」でもととりあえず申し込んだ。

いつだったかは忘れたが、「キャンセルが出たので産休明けからどうぞ」という連絡がきた。二つ目のラッキィ。この乳児保育園での縁は、自主保育、自前の保育園建設と続き、主人はその理事までおおせつかるような大きな縁に育った。しかし、「こは一歳になった年度末

までだった。市営の保育所で乳児保育しているところもあったが、すごい倍率。今度こそダメかと思ったとき、ママ友から「いつもその子を抱えている子ども好きな人がいるけど…」の情報は。その子ども好きな方に頼み込んで保育園への送迎をお願いできた。三つ目のラッキィ。しかも、私の父親は教師だった(四つ目のラッキィ)ので、学校の夏休みは実家留学させることができ、学童保育に行かせる必要もなかった。子育てはこんな綱渡りだったが、子どもも健康で、はしかといった集団生活上の必須病にはもれなく罹患したものの入院手術というような大病はすることなく(五つ目のラッキィ)、主人を始めまわりの協力を得て、なんとか勤め続けることができ、今日に至っている。わたしってほんとに人の縁に恵まれ、ラッキィな人生だった。

最近思う「縁」のひとつに、例えば同窓会への出席がある。昔はめんどろだからと不参加のことも多かったが、「縁」というものを意識するようになってからは、都合のつくかぎり参加させてもらっている。若いものにはわからんだろうけど、そのうちわかるようになるので、楽しみに待ってて。

大人の顔は その人の歴史、か…な…

三品 廣実

昭和43年卒



加茂郡坂祝村さかほねの出身である。今は洛中、裏・表の千家の近くに庵を結んでいる。

中学の三年間は、宿題だけをやって、他は、一度も勝てなかったが「野球漬け」の日々を過ごした。貧乏のせいで他家より遅れて入ったテレビで、「権藤」のドロップや「高木」のバックトス、「中」なかの左前ヒットにうつつを抜かして、夜九時過ぎには大の字、とお気楽にしていた生活が、岐高入学で一変。担任から「五時間勉強せよ」といわれて目を剥いた。やり方も知らなかった田舎出の坊やは、各教科の先生の指示通り馬鹿正直に夜中十二時過ぎまで必死で勉強し、母親から「まあ寝な体を壊すよ」と度々言われた。六時半に無理矢理起こされ、朝ご飯を掻き込み靴をつかんで徒歩十分の「坂祝」駅まで駆け足。「国

鉄」蒸気機関車のボーツという汽笛が聞こえたらギアを切り替え全速力。七時十二分発に飛び乗り、無理やり満員の人を押し込んだ。デッキを握りしめ足を踏んばって、開いたままのドアから押し出され木曾川に転落、の圧力にただ耐えた。

「鵜沼」で客がごっそり「名鉄」へ逃げたあと空いた貨車の荷物の箱の上で、世に出て間もない「チャート式数学」は開かなかったが、「親単」を暗記し、「古文研究法」を読み…。これだけ頑張っても、「この数式何て？」と隣のW君へつぶやいたのをO先生の奈良女訛に咎められ、また、英語の小テストでも二十点分の十点前後しかとれなかった。「JACK and BETTY」育ちには、こんな難しいものでも十七〜十八点をとる生徒が何人もいるらしいことが不思議でしよがなかつた。

中学の同窓会に出た。激変した生活で、一年も経たないうちに、「濁りを知らない純真な瞳」が「睨み付けるような目つき」に変わり、結果「頬のふっくらした純朴な少年顔」が、「げっそり瘦けたきつい大人顔」に、面貌が様変わりしていたらしい。ナインの一人に「おまえ誰や？」と言われてしまった。今に

続くこの顔の基本は「岐高」が作ったのである。

後日談がある。三年後、三月一日の卒業式をパスし、臨んだ三日からの雪中の入試。「火星が出てゐる」(高村光太郎)を読んで思うところを書け、という「現代国語」の長論文もばつとせず、数学・化学の不出来がたたり十余点に泣いた。捲土重来を期した翌年、東大入試の中止も響き、九百点満点で合格最低点が一挙に百五十点以上アップ、という波乱の中、なんとか滑り込んで時計台前の本物のバリケードをくぐった。大学になつたものは「入学式」、あつたものは「立て看」「デモ」、時々「機動隊」「催涙ガス」の日々、少林寺拳法とフランス語の自主講座だけに熊野寮から通う春つらの頃、寮の事務のおばさんに「いつ卒業ですか？」と聞かれた。そうか、俺は老け顔なのか。ぽかんとしていた私の頭の上を、彼女の「いや、新入生なん？ かにんえ…」の声を通り過ぎていった。



(※注)まあ中濃地域の「方言」。貴夫人の驚きではな。

大麻の復権

武藤 正博

昭和43年卒



一般に「大麻」という言葉のイメージは「大麻」マリファナ・麻薬「悪」である。「大麻」に関するニュースはほとんどが大麻取締法違反で逮捕されたというものである。芸能人を筆頭に、スポーツ選手、大学生…、エリート校の生徒になるとことさら騒ぎ立てられている。年々、その件数も増え、社会問題として大いに憂慮されている。一見、当たり前に見えるが、そこには大きな誤解がある。なぜ「大麻＝悪」という、図式が広まってしまったのか？

本来、日本の文化において、大麻は欠くべからざる植物であった。否、日本に限らず中国や韓国をはじめ世界各地で古くから重用されていた。日本においては、縄文の時代から衣食住あらゆる分野に入り込んで、しっかりと人々を支えてきた。暖かい地方に育つ綿花が江戸時代に入って来るまでは、

衣服の原料としては、麻が主流であった。麻

も、大麻と苧麻とそのほかいくつかの植物に分類されるが、特に、山間などの日照時間の少ないところでも育つ「大麻」は、全国各地で栽培されてきた。もつというなれば、日本の文化の根幹をなす神道にも深くかわり、神の依り代や、邪気を祓う神具として使用されている。人々の平安を願って毎年配られる伊勢神宮のお札が「神宮大麻」と言われるのはそうした歴史があるからである。また、広く国内で栽培されていた大麻には、向精神性のある成分THC(テトラヒドロカンナビノール)がほとんど含まれておらず、マリファナのような使い方はされてこなかった。種類が違うものであるにもかかわらず、占領軍の一方的指示により禁止とされた。そして、今日まで一緒に禁して取り締まりの対象となってしまうている。当初全面禁止にしようとしたが、あまりにもいろんな分野に利用されていたため、部分的に許可制にして栽培されることになった。その認可は、知事の権限とされているが、ほとんど、県の薬務課が取り仕切り、新規に産業用として栽培するための認可を

得ることは不可能になっている。

逆に、世界では、環境面・医学面からその有用性が見直され、生産を禁止していた欧米(共産圏では、禁止されていない)でも、研究開発が進み、産業用大麻の商業生産が政府の補助金までもらって行われるようになった。にもかかわらず、日本は、行政において立ち遅れたままになっており、民間の有志による、「産業用大麻復活の願い」を無視しつづけている。といった状況の中で私たち仲間が岐阜県で有志を募り「大麻の復権」を訴え続けている。

「真実は多面多層である」にもかかわらず、その一面の情報がすべてであるかのように思ってしまう人のなんと多いことか。それゆえ、「マーシャリズムが繁栄し、資本主義社会において少数の強者が大多数の弱者を支配できる構図が成り立っている。それを、少しでも改善する力の一助になっていきたい。



教生 UMEISSOUR

梅沢 敏郎

昭和49年卒



横綱朝青龍断髮式(両国国技館土俵上)

幹事学年の方々が二年生の時、僕は大学四年生。太田宏先生付きの教育実習生として初夏の二週間、母校の教壇に立った。太田先生の授業を初めて拝見し、その面白さ、ギリシア語・ラテン語・独仏語等を駆使なさる専門性、リズムカルなテンポ、生徒の皆さんとの日常(放課後も含めて)のコミュニケーション等「これは素晴らしい先生だ!」と感動し「迫ってやろう!」と奮い立った。

打てば響く岐高生の反応は思いのほか良好で、太田先生のホームルーム二年五組以外のクラスまで授業をさせて頂き、ファンクラブなるものもできた。卒業アルバムにも、キャプション付きで授業写真を載せて下さった。

岐高生時代には同年代(どころか、祖母母以外)の女性とは話したこともなく、かつ、大縄場の中空を飛ぶ紙飛行機「きたか」よりはる

かに低空飛行だった自分にとっては夢のような出会いだ。勿論、本職の先生方に負けなような様々な工夫・実践も行なった。

「教生という言葉に対する偏見が崩れ去ってしまった」「夏みかんの話(マル秘:横綱前田山の話)は大変だった。女子が一生懸命笑いをこらえていたのであります」等、皆さんが書いて下さった感想は僕の宝だ。数年前、有志の方々の学年同期会に呼んで頂き、そのコピーを約三十年ぶりに、ご本人にお渡しし、驚かれたり感激されたりした。

「二年生の方が子供っぽいので」さらに乗って来る」との太田先生のアドバイスで、公開研究授業は一年生で行なった。コミュニケーション活動を大いに取り入れた英作文の授業だった。「真面目に冗談なしでやるだろう」という予想が見事に裏を掻かれました「笑ってばかりの授業だったが文学博士になる方だと思っ」等の有難い感想が寄せられた。三年生のみならず、一年生の顔と名前を覚える大仕事も、楽しく行なうことができた。

授業中にも話したように、僕は相撲の研究に熱が入っている。教授に受かり辞令を頂く時、教育長からも「相撲に詳しい方でしたね」と言

葉をかけられた。「ゴツァンですー」と手刀を切って辞令を拝受し、岐阜県立斐太^{ひた}高等学校(白線流し)で有名・岐高に次ぐ伝統校・数学の小邑政明先生の母校・校歌は岐高校歌より古い名曲に新卒で赴任した。

その後、柄にもなく大学院に通い(この時優秀なYさんやKさんが四年生になっていて、できない自分は恥ずかしい思いをした)、色々な高校や国立鈴鹿高専を経て、現在は岐阜市立女子短期大学英語英文学科で学科長とならせて頂いている。岐阜大学でも非常勤で教えさせて頂いている。

相撲の研究では、『岐高百年史』にも載っていない、岐中スポーツ黄金時代のヒーロー!大正九年卒の御勝山知則先輩(出羽海部屋)という力士をつきとめ、星取も調査した。引退後大学に入学なさり、税理士として活躍なさった。「あんまり言っど知識の差が歴然とするので、この辺でやめとこ」という太田先生の名文句で摺筆致します。拙い授業を受けて下さった後輩の皆さんこそが僕の恩師だ。



御勝山知則先輩(出羽海部屋)

シカゴは

好き?

大野 隆司

昭和53年卒



私は昨年四月に図らずもアメリカ、シカゴ勤務を命じられ赴任した。

早速、シカゴを紹介しよう。オバマ大統領の地元、アメリカ第三の都市シカゴは金融、工業などを中心とした大都会である。

一方、移民の多く住む人種のつぼでもある。雄大なミシガン湖沿いの中心部は、ビジネスマンや多くの観光客で賑わい、有名な建築家が立てた趣のある高層ビル群にまつまれたとても活気のある街である。冬は寒いが晴れた日は空気が澄んでいて、摩天楼の夜景を眺めても、夜空を眺めても美しい。短い春がくると「Thanks Good」と言い皆Tシャツに着替える。そして夏がくる。郊外の街では、いたるところに芝生が植えられ強い太陽の陽を浴びて濃い緑がピカピカに光っている。六時に夜が明け二十一時に陽が沈む。休日はゴルフ。これがお

じさんにはたまらない。日が暮れるまで楽しむのである。湿気がなくカラッとして気持ちのよい夏は、日本のみなさんには申し訳ないほど爽快である。

米国では大人の三人に二人は太り過ぎて、うち一人はいわゆる肥満。子供は六人に一人は肥満。収入の縮小が進む中で、国民の「大型化」が止まらない。肥満によって成人病が増え続け、オバマ政権では医療費を値上げする改革に取り組んでいる。ミッシェル夫人も野菜を多くとるよう呼びかけている。シカゴも太った人が多くテキサス州と二大双壁という。シカゴのレストランでの一人前の量は日本の二倍。ステーキは約三倍で、食べたらお腹が重くて一日中立ち上がれない(笑)。加えてマクドナルドのドライブスルーはいつも長い列。ちなみにマクドナルドはシカゴが発祥地である。肥満の聖地か!とあらためて恐れている。私も普段は自宅で野菜中心の食事をしているが、時々妻が不在の晩はついついファストフードに走ってしまつ。

シカゴの人はみな人がいい。見知らぬおじさんもおばさんも目が合えばニコツとし

て「ハイ」などと言う。以前ハイウェイで車がパンクし、私が立ちすくんでいると何人もが止まって「どうした。大丈夫か」などと声をかけてくれる。でも残念ながらまだ若い女性から声をかけられたことはない。いつかあると信じている(笑)。

名所といえば米国三大美術館のひとつであるシカゴ美術館があり、街は昔のアルカポネ暗躍時代の面影はまったくなく、芸術、音楽、スポーツや世界中の美食で溢れている。平和でとても愛すべき都市シカゴへみなさまも是非一度お越しください。

言葉や価値観が違う人々と仕事をしているとふと人生を振り返ることもある。日本の将来を憂うこともある。色々なことを考えるようになった。でも一番思うのはやはりこれだ。ああ太田先生の授業をもっとまじめに受けておけばよかった。(全日空シカゴ支店)



再生

小野田志津代

昭和53年卒
(旧姓：安藤)



昨年の八月に父を亡くした。七十六才だった。亡くなる三日前入院中の父に家族全員で会い、ほっとした矢先の突然のでき事だった。

父危篤の知らせが携帯に届いたその時、私は神奈川県海老名のアトリエで秋に展示する為の大きな彫刻を制作していた。何か嫌な予感がして、すぐに出るのをためらった。無機質な着信音が、暑い夏のアトリエに鳴り響いていた。

葬儀も済み、日常生活に戻りつつある日、家にあつた冊誌をふと手にした。

高橋元吉特集。それとなく目を通した元吉の詩に、思わず胸が熱くなった。(短い詩なのでここに紹介させて頂く。)

明るい電灯の下で
高橋 元吉

明るい電灯の下で

なにかを話し合いながら

親子たちが笑っている

人間って

なんて可哀しいのだろうかとおもっ

こつという情景もたちまち

吹きさらされるように過ぎ去り

遠い空の

虹となる

元吉の詩との出会いは、三年前に群馬で開いた彫刻二人展だった。主催して頂いた「ギャラリー前橋」のオーナーが元吉のお孫さんだったという縁である。(高橋元吉は萩原塑太郎とも影響を及ぼし合った郷土の詩人。彫刻家高田博厚とも親交が厚く、ギャラリーの二階には彫刻作品も並べられていて感慨深い。)

父の死という人生での大きな変化を味わった後の詩との再会。それは時代を超えて作者との共感を得た喜びをかみしめる体験でもあった。

作家は言葉や音、各々の素材を選び生

かして作品にする。表現方法は様々だが、作者の手を離れた作品は時空を超えて或る者の心に何かを届け、再生する。

生けるものにはみな死がある。死ぬ時は自分の肉体諸共、一切を手放さなければならぬ。私も彫刻を創っているが、作品が私の死後残るとしても長い年月のうちに消え去ってしまう。形あるものは無くなる。しかし人が感じ、記憶や印象に残したものはどこかで再生するのだと思うと、人生も愛しくなる。

一人の死を通して、高橋元吉の詩に再会し感動を味わった様に、私も残り何年かわからない人生をできる限り創造的に生き、自分の存在しない未来に形のないものを託したいと願っている。(彫刻家・自由美術会員)



おおきな木

白木 淳子

昭和53年卒



「おおきな木」というシルヴァスタインの絵本があります。息子たちに昔、何度も読み聞かせた本のうちの1冊です。それが去年、村上春樹の訳で新登場して話題になりました。

何度も読んだので、まだそのフレーズを覚えているくらいです。「昔、りんごの木があつて、かわいいちびつこと仲良しでした。」そんな書き出しで始まるのです。ちびつこは毎日木の傍りで遊んで、木は幸せだった。時が流れてちびつこは大きくなり、木のところに来なくなりました。少年となつたちびつこが久しぶりに姿を見せたので、木はとても喜ぶのですが…

「ちびつこやい、ぼしや。わたしにおのぼり

なさい。えだにぶらさがつて、りんごをおたべなさい。わたしのこかげであそんで、しあわせにおなりなさい」

「もう木のぼりをしてあそぶとじやないよと少年はいました。「ものを買ったのしみたいんだ。おかねがいるんだよ。おかねがなくっちゃ。ぼくにおかねをちょうだい」

「ごめんなさい、おかねはないの」と木はいいました。「わたしにあるのは、はつぽとりんごだけ。りんごをもつていきなさい、ぼつや。それをまちでお売きなさい。そのおかねでしあわせにおなりなさい。」

(村上春樹訳より)

木は、自分に実つたりんごをすべて与え、少年はお金を手にした。そして大人になつた男は家を欲しがり、木は自分の枝をすべて与える。さらに男は船を欲しがり、木はついにその幹を与え、切り株になつてしまつた年月が流れ、惨めな切り株になつてしまつた木を、かつての少年が老いさらばえた姿で訪れる。何もかも失くした木が、年老いた男を温かく迎えるところで物語は終わるのです。

私はこの絵本が大嫌いだったのです。こんな悲しい話の何処がいいのか？何もかも与え続けて、木は幸せだったのか？こんな酷い男に与えつくしてすべてを失くしてしまうなんて。

村上春樹は一体どう訳したのだろうって興味津々で見えました。大体似たような感じのやさしい文体だと思うのですが、ひとつ、決定的に違うところが。切り株になつてしまつと「And tree was happy... but not really」の訳が「木はそれでうれしかった…だけどそれはほんとかな？」(本田欣郎訳)から「それで木はしあわせに…なんてなれませんよね」になっているのです。

ちよつと胸のすく思いです。どちらにもとれる読者への問いかけから、きつぱりとした否定形に。村上春樹よくやってくれた、という思いです。



バガン遺跡に 魅せられて

鈴木 博明

昭和53年卒



三年時に理科系を選択した私ですが、学業の面で思い出す事ができるのは、なぜだか社会科だけです。一年の時の杉山仁先生の地理、二年の馬淵先生の世界史、断片的ではありますが、二つの授業の内容や先生の言葉を記憶に留めています。社会人となつてからも、歴史の本を読み耽つたりふらふらと海外旅行に出かけるのが楽しみで、コテコテの仕事人間にはなり得ぬままですが、きっと岐高時代の社会の授業にそのルーツがあるのでしょう。

それに加え、二十六歳の時に中国旅行で受けた衝撃も、大きな影響を残したと思います。広州の港に降り立った時の心の震えは、今も忘れられません。香港発のフェリーを降りた我々を出迎えたのは、小銃を携えた人民解放軍でした。棧橋の両端に並ぶ無表情の兵士の隊列の間を、旅客は一列に

なつて入管まで歩きました。職場の同僚四人(いずれも同世代)での旅でしたが、元々生真面目な他の二人はかなり緊張気味の様子。自分ひとりだけが異次元世界に入り込む好奇心に胸を高鳴らせていました。

自分の裁量で仕事ができる環境となつた三十台後半からは旅行の機会も増え、いつしかインドの隣、ミャンマーという国に嵌つてしまいました。軍事政権のイメージが強い国ですが、人々は皆素朴で純真です。仏教遺跡群であるバガンの荘厳な景観にはことさら魅せられ、あげくミャンマー語(ビルマ語)まで習い始める事態に。カタコトでも言葉が覚えると、さらに旅が楽しくなります。

ミャンマーを放浪中には予想外の発見がいくつもありました。写真はラオスとの国境地帯で見つけた、日本人戦没者慰霊碑です。一銭五厘の赤紙で血涙とともに家族や故郷と離別し、遠い戦線で屍の山を築いた人々を思い、言葉を失いました。またある時にはマンガレーの町中で、先頭に「豊川稻荷」



と書かれた赤い電車が目の前を通り過ぎ、腰を抜かしそうになりました。己の頭が正常である事を確かめようと帰国後に調査し、ミャンマー国鉄が名鉄のお古を譲り受け、改装しないまま使っている事を知りました。

悩みの種は、旅行の嗜好が妻と全く異なることです。土埃舞う未舗装の道をトラックの荷台で揺られ、電気や水道さえ不十分な山奥の村落を回るなんて、全く気持ちから分らないそつです(日本では決して味わえない、エキサイティングな体験だと思つのですが...)。時には彼女の希望で、カナダや豪州、ハワイなどにも行きましたし、美しく雄大な景色や明るいいり조트ライフはそれなりに楽しいのですが、何度も行きたいとは思いません。

幸い旅先で知り合った仲間の繋がりが生まれ、現在では四十名あまりのサークルに発展しました。勉強会と称する飲み会も、毎週のように行われています。ある意味異常(?)。

これら同好の士との旅と家内との旅行は、本質的に別物と考えるのが家族円満の核心だと、やっと最近になつて悟つた次第です。

無題

中風 明世

昭和53年卒



鼻は詰まったー突然高1の秋、物理の授業中に顔面が凄まじい痒さに占領された。涙と鼻水がとめどなく流れ、くしゃみは止まらない。ぼくは、左手の親指と人差し指で鼻の穴をおさえ、口で息をしながら生徒達に指し示された先生の二本の指を、穴があく程眺めた。しかしどれが「力」で「磁束」で「電流」なのか、たった三つのことがさっぱり憶えられない。それこそ脳みそのモーターは完全停止した。

学校そばの耳鼻科で蓄膿のけがあると脅され、鼻中郭湾曲症と診断された。実は花粉症だったのだが、三十年前は病名も知られていなかった。このまま一生凄い痒みを顔のど真ん中に抱えるかと思うと、大学進学への思いは遙か遠く閉ざされたと儚んだ。

そんな秋の夜、我泣き濡れて布団に病臥

し、甚だしく痒く霞んだ眼で天井板の模様を眺めた。その視線はいつのまにか天井を破り、大気圏、太陽系、銀河系を突抜け、宇宙の果て（現在観測可能な宇宙サイズ10²⁷メートル）に行き着いた。ならばその向こうは何だ？というつすらばんやりした想念はぼくを鋭く怯えさせた。ユークリッド幾何学では手に負えない外宇宙を含む存在の不確かさ、つまり、この命だけではなくて、人類、この世界の「絶対無」に想念が飛んで、割と素直に「国家のために明け暮れ学ぶ」つもりだったぼくは、急に足下にあいた大きな穴から「トカトントン」を聞くようになった。

絶望で詰まった鼻と痒い眼と弁当を抱え、学校へ行かずに長良川の河原でボートと石に砕ける水流を眺めるほど心の病んだぼくは、これではダメになると思い、何かに夢中になればと、絵画教室の門を叩いた。

一年間毎日ブッサンすると、木炭紙にこすれて人差し指の爪がペラペラになる。血管が透けて見えた、熱く苦しい十七歳。

さて、その後、絵と暮らしのために忙しすぎて、我が家から離れることが出来ない

ぼくの代わりに、シリア、パリ、釧路、東京、京都、福岡と、ぼくの絵が旅をするところまでは頑張った。シリアでは、国際ピアニコンクール優勝者、準優勝者にぼくの作品が「中風賞」として贈られている。パリでは、カルチエラタンのレストランで、恋人たちを楽しませていることだろう。

しかし、あれから三十数年経って真っ白なキャンバスの前の自分に何を産み出すのかを問えば、やはり、「存在することの恐怖」に行きつくのは、ゴッホ、ゴーギャンしかり、画家の運命だ。未だに足下には大きな穴がぽつかりと開いたままだ。逃げたつもりが、逃げ出したもの一番近くに来てしまった。

さて、たまに酒を酌み交わす同窓の大学教授は、同じく「存在の謎」を、ぼくとは正反対に前向きに捉え、いずれこの世（宇宙）の存在を数式で表したいと一九七〇年代、十代で思ったと言つ。その数式は、絶対零度の怜悧な美しさを持つと思われる。でも、ぼくは、この手で絵を描く。

百折不撓

林 誠人

昭和53年卒



目を覚ますと、隣で彼女が小さな寢息を立てていた。驚くほどビシッ／＼とプルで安らかな寝息だった。僕は彼女を起さないようにベッドを抜け出し、煙草をくゆらせた。

眠っている……いや、目を閉じている彼女を見るのは、たぶん、これが初めてだろう。たぶんなんて曖昧な言葉を使わなきゃいけないほど、彼女と僕の間には長い時間が横たわっていた。三十年。気が遠くなるほど途方もなく長い時間だ。止まっていた時を動かしたのは、三十年ぶりに開かれた高校の同窓会だった。昨日の夜のことだ。

「変わらないな、ちうとも」「あなただって」

それが最初の会話だった。僕たちはどちらともなく苦笑した。三十年だ。変わってないはずはない。僕は、彼女が苦笑の裏に隠した小さな嘘を見抜ける歳になっていた。

僕は一度だけ彼女に告白したことがある。高

校の卒業式の日だ。ぶつきらほつに「付き合おうてほしい」と切り出した僕に、彼女は苦笑を浮かべて答えた。

「……ごめんやろ」「それつきりだった。それつきり僕たちの時間は止まった。

僕はあの時の苦笑を思い出しながら、眠っている彼女を眺め続けた。できるなら、あの時の苦笑をもう一度見てみたいと思った。あの『ごめんやろ』の裏には、何か別の意味が隠されていたのかもしれない。今だったらそれを見抜くこともできる。

彼女が目を覚ましたのは、二本目の煙草に火を点けた時だった。

「あつ……おはよう」「おはよう」

僕はよく調教されたオウムのように返した。彼女はまた眠そうな目をこすりながら、上半身を起すと、左腕の肘で体を支え、僕を見た。とても高校生の子供がいるとは思えない形のいい乳房がブラケットからこぼれていた。

「こんなつもりじゃなかったのに……」「彼女はほにかんだ苦笑を向けた。

「僕だつて……」

僕もほにかんだ苦笑を返した。

彼女が声を上げて笑ったのは、その途端だった。

「嘘ばつかりー！」

彼女も、僕が苦笑の裏に隠した小さな嘘を見抜ける歳になっていた。

「ここに登場する『僕』は、僕のことじゃない。今年の六月、岐阜で開かれる高校の同窓会に出席するかどうかを迷っていた僕に、幼なじみの画家が話してくれた話だ。

「思い出し引き寄せれば、抱きしめることもできる。それが同窓会の醍醐味だ」

彼は豪語した。食欲のないコックさんが信用できないのと同じくらい、性欲のない画家は信用できない。その意味では、彼はとても信用できる男だ。彼の話は嘘ではないだろう。こんなオイシイ話を聞かされたら、何をいっても行くしかないじゃないか。

よしー今年も僕も思い出を抱きしめろぞー！百折不撓、とめてやまずだー！

あつその前にお薬を処方してもらわなきゃ。最後に……。

僕は脚本家として、もう二十五年以上も、嘘くさいドラマや映画を全国に垂れ流してきた。でも、この話は断じて、嘘じゃないー！

岐阜のよさを 想う

原田 淳志

昭和53年卒



一昨年の在京首都圏(岐阜)高校同窓会が開催された折りに我々昭和五十二年卒業生が四十二年卒業の先輩方とともに事務局を務めさせていただいた。その前年に同級生の近藤君とともに幹事を引き受けたのであるが、高校を卒業して岐阜を離れて以来三十年余が過ぎたところであり、実家も高校三年生のときに岐阜市から羽島市に引っ越していたため、岐阜市内からも、岐阜高校からも遠ざかっていた。唯一岐阜市へ行く機会は正月に帰省した際の伊奈波神社への初詣であった。東京での同窓会の開催の準備に関わることとなったことは、私自身が改めて岐阜、そして高校時代を思い返す良い機会になったところである。卒業後二十年過ぎた頃が程良い時期であるのか、随時の同窓会も催され、同級生と旧交を温めることとなった。三十年という月日が一気に埋まった感がある。

さて、高校時代のことでは印象に強く残っていることは、太田宏先生のことである。一年のクラスは男子クラスに決まり、担任は太田先生であった。独特の風貌、厳しい生活指導、熱い思いがほとばしる英語の授業、とどまることを知らない知識、炸裂する辛口なコメントなど我々が新一年生といふことを差し引いても、一年間圧倒されっぱなしであった。そんな中で、英語のテストの答案が返却されたとき、当てずっぽしに書いた答がたまたま正解だったため、先生のお褒めのコメントが書いてあり、苦手意識があった英語に対して何か自信らしきものが湧いたことを覚えている。今でも不得手な英語であるが、大学受験に持ちこたえられるレベルに維持できたのもこのおかげだと思っている。高校生活での出来事は些細なことでも後々の人生に大きな影響を与えているのである。もちろん他の多くの先生方にも大変お世話になったところであり、東京での同窓会でも先生方の思い出話に花が咲く。

現在は総務省就職当時は自治省に勤務しているが、地方行政に関わる仕事であるので地方勤務も多く、これまで千葉県、佐賀県、金沢市、北海道で仕事をしてきた。地方自治体の税財政に関係する仕事とともに地域の活性化に関する仕

事にも多く携わっているが特にまちづくりなど地域の活性化に関連していろいろな課題に直面したときに岐阜はどつだったかなと思つ時もあった。最近の岐阜市の現況を子細には知らないが、たまに行く岐阜の印象は他の都市との比較でどこか活気に欠けるような気がする。まちづくりなど地域の活性化にも多大な努力をされているのであろうがそれを感じることができないのである。ゆかりの土地を知る、歴史を知ることが土地に対する愛着を感じることにつながる。土地に愛着を持つ人を増やすことは地域の活性化の鍵でもある。地元での様々な取り組みの積み重ねとともに、我々のような地元を離れた人間が岐阜のことに積極的に関心をもち、理解そして愛着を深め、それを自分の周辺に発信していくことも必要なのだと思う。

折しもこの原稿を書いているときに東日本大震災が発生した。現在の仕事の一つは総務省の災害対策の窓口であり、仕事の中で被災地の悲惨な状況を見るにつけ「ふるさと」が以前と変わらぬところにあるといふことのありがたさを感じるこの頃である。この機会に岐阜に大いに関心を持ち、微力ながら故郷のために尽くしたいと考えている。岐阜を大いに盛り上げようではないか！

イエロー シグナル

餅越 壽生

昭和53年卒



年末年始、初めて海外にて過ごししている。バカンスとは真逆の境遇にて。

昨年十二月十九日より、単身ナイジェリアの旧首都ラゴス、現首都アブジャに次ぐ第二の都市カドナという街に滞在中。

アフリカと言えば、誰もが広大なサバンナに落ちゆく夕日と、そこに浮かぶキリン、象だのシルエットを思い浮かべる。ここは全くそんなのは縁がなく、人、車、バイクで溢れ返った所謂商業都市。とにかく「雑然」感しかない。交通量が多いのに信号がない。車線もない。当然ガードレールもない。街路灯すらごく一部にしかない。

よつて、常に大渋滞。TVは既に衛星放送、但し衛星対応TVを有するはお金持ちだけ。ほぼ全員が携帯電話を持っている。但し常に回線状況が悪い。



建国五十余年、他国に頼らず自国を整備したと思えば、これでも良くやっていると思つた方が適切かもしれないが、個体としてのツールは有しているが、あくまで個体としてであつて、それらを有機的且つ有益に連結できていない。

故に、何でもビジネスになり得ると感じる（この地が今やBRICSに次ぐ経済発展地と見込まれ、ブラックダイヤモンドとも評されているのも頷ける。半面、全てが徒労に終わると言つた危険も、改めて感じざるを得ないが。

実は、昨年三月、一カ月程ここに滞在した。サラリーマン時代を含め、国内外問わず様々な所へ赴いたが、断突で、例えお仕事とはいえ、再訪したくなかつたのがこの地。

水が悪い、電気がこないといった事は周知。ただ、改めて体感するに、水道水は濁り、一週間に一回それも一時間位しか供給されない。飲み水はペットボトルを買えば良いのだが。

電気も一日の三分の二は供給されず、必要な時だけ専ら自前で発電。お湯も出ず、電熱器で湯を沸かし、バケツに溜め、それで体を洗う。まあ、この程度は序の口。慣れてしまえば、無い物は仕方ないと思つ様になった。

お陰で、元来せっかちな性分だが、かなり忍耐強くなった（今なら東京デイズツーランド一番人気のアトラクションに、例えGW中でも平気で並べる。多分）。

一番悩ましいのが、食糧（材）。米はタイ米（彼らの主食は「ヤム」という芋。癖あり！）、野菜も肉も不衛生極まりなく生食不可。この肉においては、その硬さに食欲は負けてしまつ（某牛丼チェーンのピラピラの肉すら羨ましい）。結果、ほぼ毎日パンとパスタの繰り返し（野菜は自前のトマトソースとかで補充）。そのくせお酒だけは、ほぼ何でも手に入る。が、何分、この食生活にして、体に悪いだろうと思えない（懲りずに毎晩呑んでいるが）。しかし、慣れとは恐ろしい！日本人にとってはとても厳しい環境にも拘わらず、決して生きて行けなくはないと思いつている（今更何故に原点復帰？という感じもするが）。千金とはいかず供、せめて百金位は獲得し凱旋するつもりです。6月の総会では是非お会いしましょう！未だ、帰国予定は立っていませんが。

因みに、お嫁さん募集してます。（こゝ、一番大事ですから！！）

我が同期、 岐高の首席と

和田 隆

昭和53年卒



高校時代から何となくウマが合い仲の良かった首席の彼は(とりあえずK君と呼びます)別に東大の理Ⅲに進んだわけでもなかったが、国家資格を取得後、ある時期から東京に行つてストレスを溜めまくる現代人の悩みを解決してくれるビジネスの先駆者となり、今は都心の超高層メゾンに住む成功者である。K君のようになれば人生は順風満帆、家族にも威張つていられるのだが、私のような運も才能も無い凡人はせめて自分の子供たちに未来を託すしかないのである。我が高校のOBの子弟というのはまたも岐高を指し入学するケースが多いと聞く。それは親の背中を見てナンとやらなのか?! 私には見せる背中も無いから、子供達は岐阜市内の中高一貫私立学校に進んだ。でも悔るなかれ。子供達が私の歳くらいになったら、「岐高」と並ぶ立ち位置までその存在感を示し

きつと同窓会のメンバーも多士済々で活躍するのであろう。いや、岐阜に「岐高」だけというのでは駄目なんだと思う。全く違う個性の学校がもつと出てきて「切磋琢磨」するべきだ！オンラインワンとは美名に過ぎず所詮は「伝統に胡坐を搔くだけ」だから、緊張感を持つてエールを交換すべきではないか？それが引いては「岐阜」や「日本」の活性化に繋がる。

身内話で恐縮だが、私の父親は八十歳近い。当時の学区制の為に、一中(すなわち岐高OBになれなかった)には入れなかった。二中から大学を出てからは全くの猛烈仕事人間で七十五歳まで現役をしていたが、今は毎日家にいる。四つ違いの母親は高校野球では全国区の知名度を持つ商業学校を出て専業主婦をしていたが、今やほとんど毎日当時のお友達に囲まれて、元気に彼方此方歩いて「何時間もしゃべりまくっている」。会社時代に仕事名目で出歩いていた父親は留守番要員である。でもこのまま「痴呆性老人」に朽ち果ててもらつては困るから、月に数回私が「ゴルフ」に誘う。そしてアフターの居酒屋に付き合う。不思議なもので家に籠もりがち

な老人がゴルフの予定があるとなると豹変し、せつせと歩き、練習場に行き、私よりもドライバーを飛ばし(父親は国体選手候補だった)、居酒屋で私より杯を傾けるのである。こうなると私は彼の息子では無くて「同級生か連れ」みたいなものであろうか??

先日、件のK君が帰郷したからオウオウと待ち合わせて、名鉄岐阜駅前の外飲み屋で寒風吹きさらしの中、ビール瓶のケースに腰掛けて「ドテ焼き」と熱燗コップ酒を片手に実に色んな話をした。

それこそ「恥ずかしい話」や「自分の弱みになる話」も披露しあつたのである。私もそう、子供達もそう、自分の両親もそうであつたらう、十五歳から十八歳に出会う人間や仲間には「プライスレスの宝物」なのである。確かに仕事や趣味で出会う友人や師もあるだろう。私は「岐高」の体質が正直好きになれなかった。でも「高校時代に出会えた連れや友人」はもつ「一生モノ」である。K君が肝焼き片手にコップ酒を呷つて一言！

「ドテ焼き旨い！岐阜、最高！岐高五十二同級生、最高！そして残りの人生もつと最高にしたい！」つて。

どんな未来へ？ 二〇五〇年への ロードマップ

杉山 範子

昭和63年卒



岐阜高校を卒業してから早くも二十数年が過ぎました。高校時代の私は、今の自分を予想できませんでしたし、携帯電話やパソコンなどが普及する今の社会など想像もできませんでした。さて、今から二十年後、四十年後はどんな社会になるのでしょうか？ 私たちはどんな未来を目指せばいいのでしょうか？

私は、気候政策（地球温暖化対策）を研究しています。「二酸化炭素（CO₂）削減」というと不都合や我慢を強いられるイメージを持つかもしれませんが、私はCO₂の排出が少ない「低炭素社会」は快適で豊かな生活になると考えています。

これまでの日本の地球温暖化対策は、普及啓発や情報提供といった「みんなで減らそ

う型」が中心でした。私たちの暮らしから排出されるCO₂を減らすために「省エネ」は大切ですが、低炭素社会を創るためには、省エネ行動に加えて、長期的な視点でエネルギー供給や都市計画にまで踏み込んだ「構造改革型」の取組みを進めなければなりません。街の中の小規模な発電所で電気と熱を供給する、生ごみからバイオガスを発生させてエネルギー利用する、駅の近くに集約して居住するなど「構造改革型」の取組みはすぐに着手できるものばかりではありませんが、今すぐできないからといってやらないのではなく、未来へ向けて道筋を明らかにしていくことは大切でしょう。

また、最近では、家電工コポイントや工コカー減税などで、優れたエネルギー効率を持つ電化製品や低燃費車への買い替えが進みました。しかし、買い替え時にテレビや冷蔵庫を大型のものにした、エアコンの台数を増やしたといった方もいるのではないのでしょうか？「単体の技術導入」は、製品の大型化や台数の増加によって最終的にはエネルギー消費量が増加してしまう「リバウンド効果」をもたらすことが懸念されています。また、

家電や自動車の買い替えは、大手メーカーや大型量販店の利益になりますが、地域経済にはあまり効果が期待できません。全国的なCO₂削減策と地域に根差したCO₂削減策を上手く組み合わせることが必要でしょう。このため、私たちの研究プロジェクトでは、地域の特性を踏まえ、地域資源を把握して、どのようなCO₂削減策を組み合わせる導入すれば、地域経済・雇用の創出に効果をもたらすか試算するツールと、二〇三〇年、二〇五〇年にむけた地域のCO₂削減ロードマップづくりを試みています。

地球温暖化だけでなく、エネルギー、資源、食料、生物多様性、廃棄物：様々な課題がある中で、私たちはこれまでの社会から「持続可能な社会」への大きな転換を迫られています。その転換は早ければ早いほど、将来の世代が受ける影響が少なくて済みます。「化石燃料への依存を減らし、エネルギー効率を上げ、都市のシステムや私たちのライフスタイルを変えていいたら、便利で快適になって、地域が元気になって、CO₂の排出も減っていた…」、そんな未来を目指して研究を続けたいと思います。

「岐阜高校」 との縁

田口 博史

昭和63年卒



今年、昭和六十二年の卒業生が、初めて同窓会の幹事を担当させていただく年となりました。併せて、昭和六十二年卒業生の一員として、同窓会会報に原稿を書かせていただくこととなりましたことを、大変光栄に思っております。

卒業して以来、私自身は毎年の同窓会総会・懇親会には一度しか出席したことがなく、仕事の面あるいは普段の生活においても、母校岐阜高校との関わりはほとんどない状態でした。ところが、この原稿を書く機会に合わせたかのように、ここ数年、岐阜高校にまつわる出来事がいくつもありましたので、思いをつくままにご紹介させていただきたいと思っております。

まず私は、今年の三月末まで、岐阜県知

事の秘書をしておりました。ご存じのとおり古田知事は、岐阜高校の大先輩であります。秘書になった当初は、組織のトップと二人だけで行動することも多い仕事に戸惑い、大変緊張しておりましたが、「岐阜高校」という共通の話題によって雰囲気や和み、随分と救われた記憶があります。

また、秘書として知事に同行しておりますと、各界で活躍しておられる岐阜高校の先輩方にお会いする機会も多くなります。そうした際に、会話の中で私も岐阜高校の卒業生であることが伝わりますと、多くの先輩方は、ふっと表情が和らいだり、「そうか、がんばれよ。」と温かい言葉をかけて下さったりします。本当に岐阜高校の卒業生で良かったと思う瞬間です。

さらに、一昨年岐阜高校は新校舎が完成しましたが、新校舎と取り壊される直前の古い校舎を併せて拝見できるチャンスに恵まれました。私が二十五年前に学んだ教室は、入り口の扉の両側に耐震工事により大きな鉄骨が埋め込まれておりましたが、それを除けば、当時のままの雰囲気が残っており、大変懐かしいものでありました。

完成したばかりの新校舎は、洗練されたデザインに加え、各教室にはクーラーが完備されており何ともつらやましい環境ですが、当時私が学んだ教室は一階のトイレの奥の突き当たりに配置された二教室のうちの一つで、その二つの教室には男だけのクラスが集められておりました。ほとんど隔離と言っても良いでしょう。当然、クーラーどころか扇風機もありませんので、夏になれば、トイレの臭いと男どもの汗の臭いが混ざり合い、何とも表現できない異臭が漂っておりました。まれに何かの用事で他クラスの女性が教室を訪れようものなら、「誰に会いに来たのか」「何の用事だ」「ゆっくりしていったらどうか」と大騒ぎ。教室をのぞいたのは一瞬でしたが、そんな光景が頭の中に鮮明に蘇って参りました。

こうして、この年にして、久しぶりに母校にまつわる出来事が身の回りに起こったのも、何かのご縁だと思えます。これからは、このご縁を大切にして、岐阜高校を応援する何らかのお手伝いが出来ればよいなと思っております。

私の生活に今でも 染み込む岐高の教え

土屋 知沙杜

昭和63年卒
(旧姓名：各務千里)



高富中学三年生だった頃の私には、絶対岐高高校に入学したい理由が二つありました。ひとつは苦しい持久走大会がないこと。もうひとつは子供の頃から続けてきた硬式テニスが部活ではなく同好会として存在していたことです。同好会でプレーする自分の姿を思い浮かべながら、なんとか滑り込むことに成功！入ってしまえばこちらのもの。勉強が全く理解できないまま、ずっずっしくも二年間過ごさせていただきました(笑)。幸か不幸か父が岐高勤務(数学・生徒指導)。毎日父の車での通学。年頃にて恥ずかしい思いもありましたが、何せ高富からの通学はひと苦労。随分助かりました。しかしながら校内で父を見かけると遠くから方向転換をしてすれ違わないように努力もし

ていました。

そんな「もぐり」的な二年間でしたが、今でも忘れられない恩師の教えがたくさんあります。

まず家庭科の宮島先生には数少ない女子に対して、女性の心得や身だしなみについてのお話をいつもおだやかにしていただきました。「傘はマドンナ式」というのもそのひとつです。つまりジャンプ式ではなく、女性たるもの手元からすーっと美しく傘をさすべし、というものです。なる程！と思つた私は、それ以後ずっと傘だけはマドンナを通しています。

またある日の放課後、生徒指導の横山先生がいつものようにビシッと旧体の入り口に立つてみえ、私は無事にそこを通り抜けようと挨拶をしながら隅の方からそーっと入ろうとしました。すると後ろから「コラー!!!」とお叱り。え？私？何かしました？と思いつつ振り返ると、どうやら何もしなかったから叱られたらしい。「自分の靴だけ揃えて行くこととするな!!」(ごもつとも！)己の未熟さに恥じながら、いつものように脱ぎ捨てられた靴でいっばいの旧体入口を、きれいにさせていただきました。中学教員時代にも

横山先生のお顔がチラついてトイレのスリッパを並べてしまったり、今でも集会所の入口などでは体がつい動いてしまったりしています……。

日本史の西尾先生の教え？に習って、勇気を持つてある出版社に間違いを問い合わせたところ、お礼の手紙や品物と共に、改訂本が送られてきたこともありました。このように私の生活に今なお染み込み続けている岐高の有難い教えがまだまだたくさんあります。

現在は自宅でこどもの英語教室をしています。元気に集まってくる子ども達に、こたばがテクニックで終わらぬよう、自ら考えて、自分の思いがこたばにのるようにと努めています。岐高で英語も赤点だった私に、ヘタの横好きでも英語を学ぶことを続けさせてくれ、見守って応援してくれた両親にも感謝の思いがいっぱいです!!



北柳ヶ瀬市街地

再開発事業

寺村 建一郎

昭和63年卒



岐阜卒業以来、学生時代を含めた七年間ほど名古屋におりましたが、現在は岐阜に戻り、岐阜県庁の近くで不動産鑑定事務所を経営しております。今回は仕事とは直接関係ないのですが、父親を理事長とした北柳ヶ瀬再開発事業が一年後の福祉・住居・店舗複合ビル（八階建）の完成をめざし、今まさに竣工時期を迎えようとしておりますのでこの事業と私のかかわりについて執筆させていただきます。と思っています。

この発端は平成十一年の岐阜近鉄百貨店の撤退に遡ります。わたしの実家は近鉄百貨店の関連ビル「アミコ」の地権者の一人でありまして、百貨店本体の撤退からほどなくして近鉄グループによる破産宣告を受けました。わが家にとっては寝耳に水の事

態だったわけですが、隣接するペルビルのオーナーより一体となった市街地再開発事業への参画をよびかけられ勉強会がスタートしました。

以降、現在組合の理事長を務める父親を中心にいろんな問題に携わって参りました。「アミコ」ビルは借地権付建物であり、地権者は民法上、RCの巨大建物を取り壊した上で、更地化して退去を求める権利を有していました。支払いを条件に近鉄グループとの調停が成立。一部強硬な権利主張をしてきた地主兼テナントとは今でも係争中ですが、十年あまりの間にお亡くなりになられた方も含め何人かの弁護士さんのお世話にもなりました。細かい所では、隣接する建物との区分所有登記の整理、取壊に係る入札の不調、アスベスト、PCBに対する対処等々枚挙にいとまがありません。

この程本工事着工を前にして協調融資と建築工事請負会社との工事契約が成立し、いよいよ工事着工をまつばかりのところでのこのたびの大震災です。現在のところ死者行方不明者合計二万人を超える未曾有の大

災害となり、皆様のご冥福と早期復旧を祈るばかりですが、早々に建設資材の不足や工期の延長等を建設ゼネコンが訴えてきました。

旧柳ヶ瀬ビルが新築された昭和四十五年当時私が生まれており、父親は第一子の私を「建一郎」と命名しました。当時華やかだった柳ヶ瀬の時代は過ぎ去り、地方都市が疲弊する中で、今回の事業も進んで参りましたが、数え切れないほどの問題を処理しながら父親を中心に頑張っております。サブリースによる長期返済のスキームであり、中高層の高齢者福祉施設或いは一般賃貸住宅、低層階の商業或いは医療系テナントの入居が予定されておりますが、契約条件の精査等まだまだ重要な問題を抱えながら前進しております。今後も父親をサポートし、柳ヶ瀬の賑わいに寄与できるように完成をめざしておりますので、同窓会へご参加の皆様におかれましては応援のほど宜しく御願いたします。



アレルギーっ子バンザイ

徳田 玲子

昭和63年卒
(旧姓：青木)



卵、牛乳、小麦、米、魚貝類、野菜、フルーツなどスーパーマーケットにならぶ食材が私の研究材料です。先日もスーパーで見切り品の完熟バナナを購入し抗原作製のため研究室でミキサーをかけました。

十年以上食物アレルギーっ子と向き合っています。藤田保健衛生大学医学部卒業後小児科医を希望しました。そこで出会った宇理須教授の誘いで始めた食物アレルギーの研究にどっぷりハマったままです。六年前からは伊勢市で小児アレルギー科として毎日十人二十人と訪れるアレルギーっ子と一緒に悩み続けています。世界中で多くの研究者が取り組んでもどのようなお子さんが食物アレルギーになるのか、「なぜ最近アレルギーっ子が増えてきたのか」といった素朴な疑問に未だ明快な答えが出されていません。一番メ

ジャーな卵アレルギーさえ二歳三歳と成長するなかで徐々に摂食可能となり自然に卒業できるお子さん、就学前になつても命の危険性から全く口にすることが出来ないお子さんと異なる経過があるのは何故なのか説明が曖昧です。答え作りとしてオボムコイドという卵白抗原を研究させて頂いています。

アレルギーっ子達と取り組む十年二十年をあつという間と感じたのか長い時間と考えるのか。私は立ち上げ二年目二十名程度の小さな「岐高吹奏楽同好会」でフルートを吹いていました。当時の主な活動は夏の野球応援や文化祭等での演奏でした。二十年を経た現在は五十名以上のコンクール入選を繰り返す歴史ある「岐高吹奏楽部」になっています。食物アレルギーに対する世の中の捉え方も飛躍的に変わり、アレルギーっ子達への温かい支援は実を結んでいます。数年前に世界でいち早くアレルギー表示制度が始まり安心して加工食品を利用させて頂いています。学校や保育園・幼稚園におけるアレルギー対応食の取り組みなどは本当に感謝するばかりです。アレルギーっ子の幸せを願うお母様達の素晴らしい草の根活動も広

がっています。

伊勢「式年遷宮」は約千三百年前、持統天皇の治世から二十年に一回行われています。木曾山麓で大切に育てられた御神木が伊勢の地に届いたのを皮切りに、遷御まで八年の年月を費やし百二十五に及ぶ神宮を立て替え御装束・御神宝も新調します。なぜ莫大なお金と労力を掛けて行われるのか。神様に新しいお社に心地良く入って頂く事が大切ですが、「伝統を傳承する節目」が二十年と感じています。伊勢市民は遷宮行事に直接参加させて頂けます。御木曳行事の際歌われる木遣り歌を、子供や私達に五十・六十歳代の諸先輩方が一年間かけて稽古を付けて下さいました。行事の段取りや御神木の扱い等々も伝えられ、私達は二十年後にそれを先輩が後輩に伝えることの大切さを紡ぎながらお互いに切磋琢磨してきたのかもしれない。

十年二十年後にもアレルギーっ子に悩む御家族は存在するでしょう。その時こそ「素朴な疑問」の答えが出せる事を目標に毎日の診療・研究を紡いでゆこうと思っています。

激戦の地と神が集う場所

長尾 博

昭和63年卒



毎年、確定申告が終わると一人旅に出る。日常の仕事から離れてリセットするには、非日常的な世界に飛び込むのが一番だ。最近、印象的だったのが、二年前に訪れた熊本だった。午前中に、西南戦争の激戦地である田原坂、午後からは、阿蘇山を横切って宮崎県との県境である高千穂峡まで足を伸ばしてみた。目的は、高千穂峡近くにある「天の岩戸神社」と称されるパワースポット(天安河原を訪れ、下界とは違う雰囲気味わうこと)にあった。まさに、生と死を別けた史跡から、パワースポットへと不思議な組み合わせの一日観光であった。「田原坂」をご存じだろうか？田原坂は長さ一・五キロメートル、標高差六〇メートルのゆるやかな坂。南下して熊本城を目指す官軍小倉連隊とこれを阻止せんとする薩軍が、明治十年(一八七七年)

三月四日から十七昼夜、一進一退の攻防を繰り返し二万人余の戦死者を出した、西南の役最大の激戦地である。田原坂は、昔から、どうしても訪れたい場所であった。数多い司馬遼太郎の小説の中でも一番好きな小説の一つに描かれている場所であるだけに、小説で描かれた描写と現地を照らし合わせてみたかったのである。そして、百二十年前、この場所で、生と死を別けた激戦が繰り広げられていたんだと想像力を掻き立ててみたかった。対照的に、天の岩戸神社は、天照大神を祀る神社で、社殿背後を流れる岩戸川断崖の中腹に弟素戔嗚尊の乱暴に怒り天照大神がお隠れになった天岩戸の洞窟がある。付近には、天照大神が天岩戸にこもられたとき、八百万の神々が集い神議をされたという天安河原等がある。ここは知る人ぞ知る霊験豊かなパワースポットだぞうだ。神々しくて神秘的、静かな秘境の河原沿いには、神々が集った神秘的な空間が存在しているのである。まさに、天に近い場所なのだ。特に、天の安川原は、大きくく口を開けた洞窟、ここで願い事を祈れば成就すると言われる理由がよく解る。とにかく、恐ろしくも神々しい。そして、

神秘的な空間である事は間違いない。近寄りがたい、まさに神の世界だった。実に不思議だ。田原坂は、日常的な風景が続くのかな田園風景でありながらも、反面、生と死を別けた激戦地。一方、天の岩戸神社は人を寄せ付けないほどの神々しい雰囲気をただよわせているが、ご神体は、自然そのものである。自然が作り出した岩戸が信仰の対象となっているからこそ、とても神秘的でもある。いずれも、目を閉じて想像すれば、今生きていること自体が本当に有り難く、感謝の念でいっぱいになる。そう、旅の醍醐味は、日常とはかけ離れた非日常を体験することにあると思う。普段の生活では、想像もしないし当たり前が出来事が、どれほど大事で重要な事なのか改めて実感できる。ここには、宗教的な雰囲気は一切無い。田原坂では、内戦の悲惨さを、高千穂峡では、自然の前に触れ伏す神々しさを体験することができた。まさに、非日常を味わう貴重な旅であった。



「ホウガク」に はまっています！

中田 良成

昭和63年卒



「中田君、どうもよー！
「はい、やってみますー」

相変わらずの安請け合いから尺八との付き合いが始まった。

今から十五年前、司法修習生として京都の法律事務所で弁護士研修を受けているときに、指導弁護士から誘われたのだ。その指導弁護士は、尺八の師範と仲が良く、指導修習生には毎年、冒頭のように声をかけては送りこんでいた。

僕は、それまで楽器というものをしたことがなく(高校の選択科目は消去法により音楽だったが…)、「ホウガク」と言えば、僕にとっては「法学」であり、「邦楽」なんて

思ったこともなかった。しかし、京都修習の短い期間だけは京都らしいことをしてみようと、本当に軽いノリで誘いに応じたのだ。それからは月に三回程度、師匠の元に通い始め、尺八の弟子入りをした。

本来は、司法研修所卒業後は岐阜で弁護士をする予定で、入所する法律事務所も決まっていたが、修習中に京女と婚姻し、縁あつてそのまま京都で弁護士をすることになった。実は、妻は、箏・三味線をしており、京都ならではの人間関係の狭さもあり、邦楽の世界から抜けられない状況に陥った。これはもう逃れられない！と観念した僕は、尺八の師範になることを(身勝手に)目標とした。

僕の属している都山流では師範になると、「●山」という名前(竹号)を貰える(●は自分の好きな漢字をさせる)。しかし、その前に准師範試験(教師資格)に合格する必要があった。久しぶりの試験であり、楽器未経験の僕には苛酷だった。都山流の歴史、楽理、ソルフェージュ(音を聞いて楽譜にする)、作譜、実技(吹奏)等の課題があり、試験勉強のために師匠の師匠(プロの尺八

演奏家に教えを請った。准師範試験には辛うじて合格し、その四年後、いよいよ師範試験を受けるために、同じくプロの尺八演奏家の元に通い詰めた。しかし、一回目、二回目の挑戦は不合格！師範試験は実技のみで四種の曲(一週間前に発表を、試験官である人間国宝(山本邦山師)や都山流宗家の前で独奏するのだ。極度の緊張下にての吹奏で、途中で何度も気を失いそうになった。落ちる度、もつやめようと思った。仕事の忙しいことも言い訳にした。しかし、三度目の正直で、二〇〇七年秋、ギリギリ合格し、憧れの竹号を手に入れることができた。合格の瞬間は本当に涙が出て、その晩は乱れ飲みした。

肝心の竹号は、と言えば、職業をネタにできるよう、「中田訴山」と決めた(建前は、人の心に訴える音色が出せるように、と説明している)。

尺八師範になつてからも、弁護士業務の傍ら、相変わらず月三回程のペースで師匠の元にお稽古に通い、「中田訴山」として尺八道に精進している今日この頃である。

原点に戻る

野下 えみ

昭和63年卒
(旧姓：馬場)



岐高を卒業して二十年余り、平穏なようでも、それなりに色々ありました。

私は大学卒業後、検察庁で九年間勤めましたが、一人目の子が生まれた後、復帰することなく退職しました。直接の原因は、その子の気管の一部が生まれつき狭く、気管切開をして呼吸を確保していたため、一日に何回も痰の吸引が必要で、当時は保育園に預かってもそののが難しかったからです。ただ個人的には、声帯の下に穴を開けているために声が出ず、大人がすぐ近くにいても泣いていることに気づけない時があるというところが、保育園に預けるのを断念した一番の理由でした。

毎日痰の吸引をし、二週間に一度大学病院へ通い、半年に一度入院するという生活

は、さほどの負担にはならないだろうとの予想に反し、意外と疲れを感じました。どこへ行くにも吸引のための機械やカテーテルを持ち歩かなければならないこと、仕事ができないうこと、病院での待ち時間がとても長いことなどが、積み重なってストレスになっていったようです。それでも、入院中に様々な病気を抱えた子供たちやその親御さんとお会いしたとき、私など命の心配をしなくてよいのに、この程度でストレスがたまるなんて言うてはいけないと思いました。

そんな中、入院中に、子供が昼寝から目を覚ましてつかまり立ちした途端、急に、声を出そうとしても出せない、というような表情になり、みるみるうちに顔が紫色になってしまったことがあります。まるで額からあごまで一気に暮を下ろすように、ザツと変色していった様子が今でも目に焼き付いています。「息してないっ」と叫ぶ私の横で、緊急コールが鳴り響き、大勢の医師や看護師が駆け寄ってきました。しばらくして、子供の喉をふさいでいた大きな痰の固まりが取り除かれたときには、本当にほっとしましたが、もしこれが病院内での出来事でなかつ

たら…と思つと、ぞつとしました。命に関わる病気ではなくても、いつ何が起るかわからないと痛感した経験でした。

幸い、この子が二歳を過ぎたころから言葉をしやべり出し、肺炎等にかかりやすいと言われていた割には、風邪もあまりひかないでいてくれたことは、とても幸運だったと思います。そして、三歳のとき保育園に預けることができたのを機に、私は弁護士登録し、この春で五年が経つたところです。

日々ばたばたと過ごす中で、再就職した頃の三元気に働けるだけで感謝」という殊勝な気持ちも忘れがちになっていましたが、昨年末、私の大切な友人が、病気のため春を迎えられないかもしれないとの宣告を受けたと聞かされました。心の準備をする時間もないままに、まだ小学生の子供たちを残していく友人の気持ちを思うと、日々悩まされていたことなど、本当に些末なことだと思ひ知りました。

そして、日本中が大震災で騒然とする中、例年と変わらず満開となった桜の下を通るときなど、穏やかな生活を続けられることの貴重さをかみしめずにはられません。



目標を持つことの 大切さ

松澤 和宏

昭和63年卒

はじめに、このたびの東日本大震災により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。岐阜卒業の翌月から丸六年間私が生活した美しい杜の都仙台をはじめ、多くの地域の災害に胸を痛めています。科学技術で人類の幸福を目指す身として、大自然に対する無力を深く感じ、あらためて謙虚に、そして前向きに取り組むことを目標としたところです。

今回の寄稿は、様々な意味の節目と重なりました。すなわち、歳も四十を越え二回目の成人式？が過ぎ、昨年は勤続十五年の祝いを会社から頂戴し、今年の年明けには後厄のお祓いを終えたのです。この機会に、高校から大学の時期を振り返りましたが、その過程で、目標を持つことの大切さを再認識しました。以下、手探りで稿を起してみます。

私が岐阜在学時は、文系

／理系は二年進級時に分かれたので、文理をゆつくり選択出来た反面、社会・理科各二科目の履修は、受験と云う近視眼的な視点では、負担に感じたものです。私は高校入学当初より、工学系に進学するつもりでした。従って、「ゆつくり選択」は特段魅力ではなかったですが、受験に促われず広く学ぶ貴重な時期だったと思います。尚、蛇足ながら、科目選択はクラス編成や人生に影響し、私は理系ながら三年間男女クラスと云うレアケースに該当しました。更に、文系の妻とは一年・二年と同級だった、と云うおまけ付きです。

二年間岐阜で水を飲むと学力が向上する、との迷信？のおかげもあると思いますが、早くから目標を持つことが功を奏し、工学部に進学しました。ちなみに、科目の好き嫌いは、英語・化学が好き、国語・社会が嫌いの部類でした(後者を受け持った先生方、大変申し訳ございません)。尚、水の話は、水Ⅱ環境(先生・友人他)と捉えれば、あながち迷信ではないと思っています。

大学進学直後は、第二志望校だったことが尾を引き、今思えば目標のない後ろ向きの日々を送っていました。しかし、二年目を迎え

る頃に学科選択を迫られることで、何を学ぶか真剣に考えることになりました。これが新たな目標設定の機会でした。目標は、スケールの大きなモノ造りでした。結果として、金属学を学び、試験管やビーカーを大きな炉や鍋に持ち替えて、何百トンもの鉄を溶かす仕事を選びました。金属学の道を選んだ理由は、金属工学が著名な学校であったこと、その金属工学の中にも自分の好きな化学の分野(金属物理化学)があること、でした。

時代はバブル直後、堅い職業への人気が高まり、なかなか希望通りの職に就きにくい状況になりました。しかし、目標を強く意識し続けることで、当時、世界最大の製鉄会社への入社が叶い、本当に何百トンもの鉄を溶かす仕事に従事することになったのです。

今は、世の中は変わり、業界再編も進み、当時の国内大手五社は、いずれ三社に集約される勢いです。次世代を担う子を持つ親の立場としても、製鉄業、更には国内製造業の行く末は非常に気になるところです。このような激動の時代ではありますが、今まで通り目標を持つことで、この先を切り拓いていきたいと思います。

忘れてはならない 二〇二二年三月

森野 杏子

昭和63年卒
(旧姓：村山)

【三月三日】

会報部から寄稿依頼の文書が大阪府の自宅に届いた。年明けに岐阜在住の同級生から打診があり、「離れているし、何か出来ることがあれば」と軽い気持ちで引き受けた。あれやこれやと頭を巡らせ…。寄稿のためのネタを収集していた。

高校時代の思い出。

・卒業時には、学年で二人しか残らなかった女子バレー部のこと。

・物理のH先生に「むっらやまあ(村山)、目え開いて眠るなあ」と柔らかくにご指摘いただいたこと。

・音楽のO先生にお世話になって「カロ・ミオ・ペン」を上手に歌えて「声楽科も考えたらう？」とお褒めに預かったこと。

大阪に住んでからの話。

・タクシーに乗るときは、必ず「不況やし、大変ですねえ」「金本、打ちました？」とこちから運転手さんに声をかけ、「コミュニケーションションをとれるようになったこと。」

・「これ、もう少しなんとかなりませんか？」と値段交渉のような挨拶ができるようになったこと。

・「こっちが十分も先にオーダーしましたけどお。」「とにこやかに、そしてはつきりと思いを伝えることができるようになったこと。

もう少し、集めて二十日頃取りまとめて提出しようと思っておいた。

【三月十一日】

東日本に大震災が起こった。

もつ、何も言葉が出ない。この世の終わりと見紛うほどの映像や、新聞記事が次々と目に飛び込んでくる。

いつもなら、千二百字程度の作文であれば一時間程度で書き上げるのだけれど…。今は全くテーマも言葉も思い浮かばない。生来の怠け者である自分の性格をこれほど悔やんだことはない。締切が迫る。お断りしようか…。いや、穴をあけては迷惑がかかる。

【三月二十九日(締切二日前)】

「天罰」と発言し批判された知事もいたが、目に見えない恐ろしい巨大な力が人間社会で作り上げたいろいろなものを奪っていく。神様が怒っているのだろうか。それにしても非情だ。三月末だというのに雪が降る。原発に関わる被害もいまだ終息時期が見えない。被災された方々、救援活動や原発で必死に作業されている方々を思うと、胸が締め付けられる。この国は一体どうなるのか…。

しかし、沈みこんでいても埒が明かない。顔をしかめるだけでは、何の役にも立たない。息子達をしっかりと抱きしめ、今ある命に感謝し、手を強く握り、若い彼らと一緒に立ち上がるしかない。

ささやかではあるが義援金に協力し、無事小学校を卒業した長男の野球仲間から集めたランドセルを東北支社から被災地に届けるべく、今日とりあえず四つ抱えて出勤した。通勤ラッシュ時にも関わらず、周囲の乗客の目は温かかった。まだまだ出来ることとはありそうだ。まずは、人間のあるべき姿を一から見直さなければなるまい。

私達の大切な大切な日本の国。どうか、早く春が来ますように。

南アフリカは危険な国か？

小林 住彦 昭和53年卒



ワールドカップ決勝戦会場に向かう筆者

僕は現在、広告会社の電通でワールドカップなどの国際サッカー大会の仕事に従事している。昨年開催されたワールドカップ・南アフリカ大会を前に、現地視察に出かける機会があった。危険だと評判の南アの、どこがどのくらい危険なのか、肌で知ることがその目的の一つだ。まずは、南アで最も安全な街と言われるサンシティを訪れることにした。ヨハネスブルグから車で三時間弱の距離だ。

夜の八時過ぎ、サンシティに到着。守衛が管理するゲートを通って街に入る。この街は、ここで働く人以外には観光客しか立ち入れない構造になっている。ゴルフの女子ワールドカップ会場にもなったゲーリー・プレイヤール・カントリー・クラブの他、カジノや人工ビーチも備えている。



青空に映えるホテル「ザ・パレス」

その雰囲気はアメリカのデイズニー・リゾートを思わせる。今回は、そのサンシティで最も高級なホテル「ザ・パレス」に泊まることになった。ザ・パレスは、アラビア風のデザインで、客室は一人で泊まるには広すぎるくらい広く、天井も高い。僕が



ザ・パレス最上階の客室からの風景

テーブルの上のワイングラスが割れた音だった。ただ事でない事態に、一瞬何が起こったのか理解できなかった。気を取り直してその物体に目を凝らすと、それは三匹の猿だった。（そのうち一匹は子猿で、親猿にしがみついている）。

猿と目が合った。小学校一年生の時、長良の天神で猿に襲われた苦い記憶が蘇った。その時には、逃げる僕に付け込んで猿が襲いかかってきたのだった。もうその轍は踏むまい

泊まった部屋は最上階に位置しており、窓の外には星空が広がっていた。

翌朝、目を覚ましてカーテンを開けると、目の前に緑の森が横たわり、その先には広大なサファリが広がっていた。ピラネスバーグ国立公園だ。青い空にサバンナの壮大な景色、（どこまでも静かで穏やかな一日の幕開けだ）。そんなことを感じなが

ら窓を開け、大きく深呼吸をし、歯を磨こうと洗面所に向かって歩いてきたその時、背中越しに「ドスン」「ドスン」という鈍い大きな音が響き、間髪おかず「パリーン」というガラスの割れる音がした。

振り向くと、何か黒くて大きな物体が、テーブルに上がり、コンプリメンタリーのドライフルーツを食べている。「パリーン」というのは、

と自分に言い聞かせ、僕は猿から目を離さず、猿とのにらみ合いが続いた。部屋に侵入してきた猿たちは、注意深く僕を見つめながらも食事の手は休めない。テーブルのドライフルーツを完食すると、ゆっくりと冷蔵庫に近づき、その上に置いてあったポテトチップを手にし、器用に封を開け、慣れた手つきでポリポリ食べ始めた。

僕は猿から目を離さないよう注意しながら受話器を取り、フロントに電話した。

「もしもし、部屋に猿が入ってきました」

「窓を開けましたか？」

「はい、開けました」



部屋の窓に貼ってあったステッカー

「窓に入るのを窓を開けない

でください

い」と書いて

あるのを

見ま

せんで

したか？」

(後で見

みると、確

かに小さな

ステッカーが申し訳程度に貼ってあった。

「そんなの気付かなかった。とにかく

く、猿を追い払ってください」

そう言うって僕は電話を切った。その間に猿はポテトチップを食べべつき、今度は三角柱型のチョコプレートを食べ始めた。その頃には僕にも少しの余裕ができ、この状況を記録しようとして手探りでカメラを手にした。

猿たちは、この部屋の食べ物を食べべつきすと、開いた窓に向かって悠悠々と歩きはじめた。ようやく出てゆくかと思つたその時、猿たちは立ち止り、こちらを振り向いた。そして、背中に子猿をおんぶした猿が、



帰途に就く猿の親子。親猿は右手にミニチョコを持っている

ベッドサイドに立ち尽くしていた僕に向かってゆっくり近づいてくる。そして、ベッドに上がり、握手を求めると、こちらに片手を伸ばしてきた。何をやる気だ？と思つたその時、猿の手は、枕の上に乗っていたミニチョコをつかみ、再び開いた窓の方に向かっていった。

ホテルの従業員がほつきとちりとちりと持って部屋に到着した時、三匹の猿は既に広大な森のあなたに姿を消していた。アラビア風の衣装をまとった従業員は、何食わぬ顔で窓を

閉め、ガラスの破片やら、空になったポテトチップ

の袋などの掃除を始めた。

冷蔵庫の前に何か緑褐色

の物体があるので見てみ

ると、それは猿の糞だっ

た。くやしい気持ちを通

り過ぎ、敵ながらあっぱ

れという気持ちになった。

チェックアウトの際、

フロント係が「ミニバー

はお使いですか？」と

ノー天気聞くので、

「使ったけど、食べたの

は僕じゃなくて猿だ」と、

ミニバー代金の支払いは

拒否した。

僕はその後、ワールドカップの期間を通してヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバン、ブルームフォンテインなど南アの主要な都市に延べ一ヶ月以上滞在したが、この時以外に危険な思いをすることはなく、サンシティでの出来事が唯一身の危険を感じた体験だった。むしろ、南アで出会った人々は皆、どこまでも明るく親切だった。

南アでは一日に五十人位の人が殺されているとのことだから、実際には危険な国なのかもしれない。でも一方の日本では一日に百人以上が自殺している。南アの人口は日本の半分なので、日本では南アで殺される人と同じ割合の人が自殺していることになる。南アと日本、いったいどっちが異常な国なのだろうか。多くの人が自殺せざるをえないような日本の方が、精神的にはずっと危険な国だと言えるのではないか。だとすれば、次代を担う子供たちももっと健全な環境で暮らせる日本を作ること、それが、我々の世代に課せられた使命ではないか。サンシティの猿は、僕たちにそんなことを教えてくれたのかもしれない。

雪男の謎を追う

近藤 幸夫 昭和53年卒



「世界の屋根」と呼ばれるヒマラヤ山脈一帯では、半身半獣、直立二足歩行をするイエティと呼ばれる謎の生き物がいると信じられてきました。日本で言う「雪男」のことです。

私は、子どものころから雪男やネッシーなどいわゆるUMA（未確認動物）が大好きでした。「いつか自分も雪男を探しに行きたい」と願って

いました。その夢が、まさか新聞記者になって叶うとは思ってもみませんでした。二〇〇三年秋、ネパール中部のダウラギリ山群を訪ねました。雪男の発見を目的とした日本の「イエティ捜索隊」の取材でした。

捜索隊の高橋好輝隊長はヒマラヤ登山家です。一九七一年、七五年の二回、この山域にある七〇〇メー



トル峰の登山隊に参加。このとき何度も雪面に残る人間に似た足跡を見つけました。「この足跡を残した動物の正体を知りたい」。こんな好奇心から、山仲間と声をかけ、一九九四年に第一回の捜索隊を率いました。

この遠征でも、以前見た足跡を発見。このほか、未知の動物が住む岩穴を見つけ、自動撮影カメラを設置しましたが、ストラップを引きちぎられて撮影には成功しませんでした。

二〇〇三年の遠征は、私が勤務する朝日新聞社が後援しました。私は同時期に社内留学制度でカトマンズに滞在していました。会社から「イエティ捜索隊に同行してもよい」と許可があり、千載一遇のチャンスものになりました。遠征隊から遅れること一カ月、登山口のポカラからシエルパー一人とポーター十人と一緒に約一週間かけ、標高四三三〇メートルのベースキャンプ（BC）に行きました。

当時、ネパールではマオイスト（共産党毛沢東主義派）がゲリラ闘争を仕掛けていて、途中の村の宿で銃を持ったゲリラが来て寄付を強要されました。最奥の村を過ぎるとジャングル帯になり、ヤマビルに襲撃されたり、今にも切れ落ちそうな吊り橋を渡ったりして、「これぞ怪獣探検の醍醐味だ」と、わくわくした日々が続きました。

BCに着くと連日、雨が降り、捜索は難航していました。尾根に設置した

十七台の自動撮影カメラには、イエティらしき動物は写っていません。高橋隊長も「手応えが感じられない」と愚痴をこぼしていました。

だが、遠征終了直前に「事件」は起きました。九月二十七日正午過ぎ、私は古山伸子隊員たちとBCで昼食を終え、ネパール人スタッフたちと談笑していました。他の隊員たちが捜索活動を続けている上部キャンプ（標高四七二〇メートル）の近い岩壁に人影があるのを、シエルパが確認。古山隊員が「トランシーバーで「稜線にいるのは誰ですか？」と上部キャンプに連絡を入れると、「今、テントの中で全員で昼食の焼きそばを食べている」との返事。BCも上部キャンプも大騒ぎになりました。

というのも、BCがあるタレジャ谷一帯は外国人が入山するのは捜索隊が初めてで、我々以外に人間がいるはずがないからです。地元の猟師もこのときは入山していませんでした。目撃したシエルパによると、人影は三人いて、岩場で休んでいたそうです。全体に黒つぶかったそうで、隊員だと思ったそうです。ネパールでトレッキングをしていると、シエルパの視力の良さに驚かされます。

「ほら、あそこにカモシカがいる」と指を指して教えてくれるのですが、肉眼では全く見えません。双眼鏡でシエルパがいる地点を見ると、確かにカモシカがいるのです。

上部キャンプの隊員たちは周辺を探しましたが、それらしき人影は見つかりませんでした。BCにはテレビ朝日取材班のカメラマンもいて、目撃地点付近を撮影。シエルパに詳しい場所を確認してもらい、翌朝、周辺を搜索しました。すると、岩壁で傾斜が緩い場所の雪面に長さ二十センチ、幅十センチの人間の子どものような裸足の足跡が十三個見つかりました。驚くべきことに、足跡は垂直



に近い約五十メートルの岩壁で途切れ、つまりこの岩場を登っているのです。さらに、尾根の反対側の谷に向かつて滑り降りた跡も残っていました。

シエルパたちは「絶対に熊や雪豹などの四足歩行動物でない」と断言しました。また、大きさについても、「立った姿は一五〇センチくらい」と証言しています。結局、イエティの写真撮影は成功せず、目撃証言と足跡（しかし、雪が解けて不鮮明）の写真だけが搜索隊の成果でした。イエティの謎は残りました。二〇〇八年にも、高橋隊長は遠征隊を率い、このときも足跡を撮影しています。AFP通信社がカトマンズ発で足跡の写真を世界中に流し、日本でもワイドショーで報じられました。

一体、イエティとはどんな動物なのでしょう。高橋隊長は、「大型類人猿の一種。ヒマラヤで独特の進化を遂げたオランウータンの亜種ではないか?」と考えています。

オランウータンは、現在はボルネオとスマトラ両島の熱帯雨林に生息しています。搜索隊が入山したダウラギリ山群周辺の住民たちは、雪男のことを「ボンゴ・マンチェ」と呼ん

でいます。ネパール語で「森の人」という意味で、マレー語の「オランウータン(森の人)」と同じです。

果たして、そんな可能性はあるのでしょうか?三十年近くボルネオでオランウータンの調査を続ける元京大霊長類研究所助手の鈴木晃さんは「七千年前には大陸のベトナムなどにもオランウータンがいた。さらに古い時代にはさまざまなオランウータンの仲間がアジア各地にいたので、一部がヒマラヤに残っていたとしても不思議ではない」とさらなる調査に期待を寄せています。

二〇〇三年の搜索隊取材の前に、サル類に関しては世界最大の動物園と言われる犬山市の日本モンキーセンターを訪ねました。類人猿担当の学芸員は、イエティについて興味を持ってくれて、ゴリラとオランウータンの足形をいただきました。そして「とにかく写真撮影に成功し、『外堀』を埋めてください。写真がダメなら体毛でも糞でもいい。証拠が固まれば、学術調査隊の派遣につながります」と激励してくれました。

私はカトマンズのネパール山岳協会で半年間、研修生活を送りましたが、何度もヒマラヤ山中に出かけまし

た。途中の村々でイエティについての聞き取り調査をしました。



エベレスト周辺では「イエティ」と呼ばれ、「岩場に住む人のような動物」の意味です。エベレストとダウラギリ山群の中間の村では「ヒマ・ナンブ(雪の人)」と呼んでいました。そして、ダウラギリ山群では「ボンゴ・マンチェ」です。

ヒマラヤ山中の住民たちの多くは、カメラも持っていないので、写真は入手できませんでした。しかし、目撃者に絵を描かせると、やはりチンパンジーのような類人猿に似た姿を描きます。手が長くて、顔には毛がなく、尻尾もありません。ふだんは森に住んでいて、夏場は高い場所に移動するようです。目撃例は早朝か夕方、オランウータンのように単独行動をしているそうです。

現在もイエティは見つかっておらず、謎は残ったままです。でも、いつの日かイエティの正体を解き明かしたいと願っています。

思うままに

桑原 鑛司 昭和38年卒



「吉田キョクマメと読んだやつがい
てな」

と言って先生は苦笑された。吉田先生が黒板に描かれる字は大きくて屈託がなかったが、失礼ながら達筆とは言いがたかった。隣のクラスの話だが、黒板一杯に吉田豊と縦書きに大書きされた時、豊の一字が二文字に見えて曲豆。岐高に入って最初のホームルーム、先生の自己紹介、そこでいきなりコワモテの吉田先生の名前を声に出してキョクマメとはよく言ったものだ。凄いやつがいるもんだと思わされた。当時の先生は柔道部の部長、体重八十キロを優に超える堂々たる偉丈夫で一声発すれば皆震え上がったものだった。

吉田先生の国語・漢文の授業。白楽天、「長恨歌」の一節に目が釘付け

となった。無理やり目を剥がすと虚空の一点を見つめたまま金縛りになる。気がついて目を閉じると妄想が荒れ狂う。

「温泉水滑洗凝脂」

温泉、水滑らかにして、凝脂を洗う。ギョーシヲアラウ。ギョーシ？ギョーシ！男子クラスだった。「長恨歌」の二回目の授業の時、私は思いきって手を挙げた。

「あの、凝脂を洗う、というところですが先生はここをチャンと説明されませんでした。もう一度お願いします。」

チョット勇気が要った。男女クラスだったら質問できなかったろう。先生は一呼吸おいて

「何でも説明すりゃいいというもんじやない。そのうち分かる」

と言われた。そのうちは、その時私が想像したよりもズツと長い時間がかかった。とはいももの、ホントウに分かったのか、未だにわかっていないのか、よく分からない。

今、この稿を書きながら五十年越しの？に光を当てるときが来たのかも知れない、と思った。そこで、中国文学において高名比類なき吉川幸次郎先生の解説を岩波新書の「新唐詩選」から引けば、

「温泉の水は滑らかにして凝れる脂に洗ぐ」

と読み下し、凝脂とは、まつしろにかたまつた脂肪。美人の肌をそれに例えることは、『詩經』以来の比喩である、と続く。要所を抜き書きすると、

「なお洗の字は、體を「し」し洗うという意味ではない。…（中略）…凝脂のような、つまり玉子のむき身のような肌の人は、じつと湯ぶねの中にある。その上に温泉の水が湧き出し、流れ、そそぎかかる、のでなければならぬ」

とある。玉子のむき身のような肌ナノダヨ、楊貴妃の肌は！

こばやしひろし先生の世界史の授業、第一声は「歴史とは何ぞや」だった。古代ギリシャ、マラトンの戦いの話だった。ああ、高校生になったんだ、中学とは違う勉強が始まるんだ、という感慨に満たされた。これまで多くの講義を受けてきたが、忘れられない講義のひとつだった。ちょうどこの頃、小田実の「何でも見てやろう」が出版され、こばやし先生が授業の中で「これは読むに値する」と言われたことも強く印象に残っている。

沢田助太郎先生の英語の時間、「エリザベスを愛称で呼ぶとき、どういうか」

映画の話だったのかエリザベス女王の話だったのか、前後の脈絡は覚えていない。エリザベス・テラーが最も美しい頃だった。ホイキタと手を挙げたら一人だけだった。

「リス」
「ホウ、知つとったか。ならウイリアムは？」

「ビル」
「ロバートは？」

「ボブ」

「よく知ってるな」

当時、映画をよく見た。映画の中ではお馴染みだ。中学三年のころから映画館通いが始まった。アランドロン、「若者のすべて」「太陽がいつぱい」、「ジャン・ポール・ベルモンド」「勝手にしゃがれ」「雨の唄ひ会い」、ナタリー・ウッド「草原の輝き」、挙げれば切りがなくなる。古いフランス映画もよく見た。ジャン・ギャバン、ジェラルド・フィリップ、ルイ・ジューベ。煙草を吸ったのは岐阜二年生のころ、ジャン・ギャバンが薄い唇の端に紙巻（ゴロワーズ）を貼り付けて喋るのを見て憧れたのだ。ハンフリー・ボガートが葉巻を吸う姿も男っぽくてナントモイエナイものだったけれど、高校生じゃサマにならないと判断するくらいの分別はあった。ハリウッド映画も見た。ジョン・ウェイン、ゲイリー・クーパー、ジェームス・スチュワート、ヘンリー・フォンダ、グレゴリー・ペック、アンソニー・クイン、ああ、止まらないよ。

後年、NHKの衛星放送で「アフターズ・スタジオ」という番組があっ

た。女優が舞台上がって、出演した映画について語るインタビュー形式の演出、司会者もスマートでおもしろかった。番組の最後に十の質問というのがある、その十番目の質問は「神に召されて神の前に出たとき、神に何か言ってもらいたいか」。

長寿番組でたくさん俳優がこの質問に答えたが、私がウンと頷いたのはアンソニー・クイン。

「ニッコリ笑ってこう言ってもらいたい。大丈夫、解ってるよ」

女優では、ヴィヴィアン・リー、イングリッド・バーグマン、ジェニファー・ジョーンズ、オードリー・ヘップバーン、マリリン・モンロー。

「裏窓」のグレース・ケリーは綺麗だったなあ…。寄り道が過ぎた。話を戻そう。

伝聞だが、沢田助太郎先生が三年生を担任されたとき、毎朝ある生徒を下宿に迎えに行かれた。部屋にはいつもウキスキーの瓶が転がっていた、と。もうひとつ、これも伝聞だが、オジさんに連れられて駅裏の娼家に行って味をしめ、しばしば出入りしていたものもいたという。ヤルモンダネ。

酒といえば二年生のときの体育祭、

クラス対抗の、確か直線コースだったから五十米競争。我がクラスの井〇〇彦、三十米ほど走ったところで足取りが乱れ始め、最後はフラフラと歩いてた。マズイと思ってゴールへ走り抱きかかえたが顔面蒼白、脂汗。前夜の酒盛りによる二日酔い。案の定、ご注進に及んだやつがいて

「あいつら、タベ…」

吉田先生はゴールに走った私を呼んで

「バカヤロー、分からんようにやれ！」

一喝されただけで済んだ。二度とやらなかったよ。

上高地にテントを張り、焼岳に登った。敦賀の海水浴。妙高、赤倉へスキーに行つて、北高の女の子たちと仲良くなったこともあった。深夜の金華山登山と校歌放吟、長良川の鮎釣り。勉強もしたけれど、よく遊んだあのころの仲間たちが懐かしい。

古き良き時代の校風を伝える名物先生がまだ健在だった。やさしくて

真情溢れるお人柄に胸打たれた三輪達先生、一度も授業を受けたことはなかったが、殿岡先生、高井先生、飯塚先生、顔を見れば親しく声をかけていただいた。今思えば、我々の学年あたりがひとつの時代の変わり目だったのかもしれない。

〈略歴〉

昭和三十八年 岐阜高校卒業

昭和四十三年

東京藝術大学美術学部芸術学科

卒業

昭和五十四～六十二年

岐阜県美術館 学芸委員

昭和六十一～六十二年

フランス、パリ滞在

大学卒業後、画家として作品を

発表(東京・文藝春秋画廊、岐

阜・高島屋画廊)

また、金城学院大学、愛知県立

芸術大学等で講師

現在、ヤマザキマザック美術館

学芸室 室長

校舎、校歌

安田 貴彦 昭和53年卒



岐高の校舎は、平成二十年度から順次改築され、本年度からは全面的に新しい校舎が供用されている。考えてみると、卒業後はほんの数回しか岐高に行ったことはない。今頃になって、旧校舎が取り壊される前に一度行ってみればよかったかなと思う。

私にとって旧校舎で最も思い出深い場所といえば、何といっても道場だ。ほとんどの同窓生の方には何の関わりもない場所だったかも知れないが、我々剣道部員にとっては、体育館の脇に隠れるように建っていた、あの決して立派とは言えない道場（昭和三十九年築だったと思う）は、毎日のように稽古し、今も付き合い合う親友を得、また、師範の村瀬隆平先生から多くの教えをいただいた、剣

道独特のあの匂いとともに記憶に刻まれた場所だ。何せ狭い道場で、村瀬先生と稽古した時など、追い込まれて竹刀を道場の外までではじき飛ばされたこともある道場のせいではなく、私が弱かったせいですが。京都大学でも剣道部に入り、今も細々と稽古を続けているが、高校時代が一番伸び伸びと剣道を楽しんでいたような気がする。

その道場も含め、永く岐高生がお世話になった旧校舎がなくなった今、OBと現役が共有する思い出となる。やはりそれは校歌かも知れない。岐高の校歌は、非常に短くテンポが良く覚えやすかった。今でもソラで歌える。ただ、その歌詞には、入学当時、かなり大きな違和感を覚えた箇所があった。皆さんの中にも、

同感の方がいらつしやることと思うが、

「国家のために明け暮れ学ぶ」と

というフレーズである。

正直、「いつの時代の話じゃ、こりゃ？」と思ったものである。とりわけ私がその思いを強くしたわけは、この校歌が戦後にできたものだとして勝手に思い込んでいたからだ（でも、そう思うのも無理ないと思いませんか？「我が『高校』の誉れをばよ」という歌詞ですよ。学制改革により新制岐阜「高校」になったのは昭和二十三年ですから、それ以降にできた校歌だと思っるのが普通じゃないですか？）。

ところが、今回この原稿を書くに当たって調べてみたところ、この校歌、なんと明治四十五年、今から九十九年前の作品であることが分かった（皆さん、そんな話高校時代からご存じでしたか？）。しかし、ここでまた疑問が湧いてくる。

「だったら、『我が高校』ってフレーズは何なんだ？」

これも今回解明できた。実は、戦前は「わが中学の誇をばよ」と歌われ

ていたのだという（「我が高校」と歌うよりも語呂が悪い気がするの私だけでしょうか？なお、「誇」がどうして「誉れ」に変わったのかまでは、今に至るまで分かりません）。

となると、戦後の学制改革に際して、当時の校長先生（旧制岐中から新制岐高にかけての校長先生は伊藤喜一先生という方）のご判断により、かどうか分からないが、ともかく岐中の校歌を最少限の修正に留めて岐高の校歌とすることとしたわけだ。

ここからは、全くの推測である。敗戦後の米軍占領下のあの時代のことだ。「国家のために」なんて歌詞は時代錯誤も甚だしい、軍国主義的だ、などという意見もきつと強かったに違いない。しかし、にもかかわらず当時の学校当局は、敢えてこの歌詞をそのまま残す決断をしたのだろう。何故か？

戦後も字義どおりに「国家のために学べ」と教えを垂れたことから、ではないだろう。これは、新制岐高生に対して「自分は一体何のために学ぶのかを、自分で考えよ」との問いかけなのではないか、というのが私なりの理解だ。少なくとも私自身は、当時この歌詞にいさよかの反発

を覚えながらも、「はて、それでは俺は、何のために勉強してるんだろ？」と、少しは考えたのは事実である。高校時代の私には到底その答えはみつからなかったが、学ぶというこの意味、一個の人間として自分の存在意義は何なのか、を考える一つの契機を与えられたことだけは間違いない。

ちなみに、私自身のその後について申し上げれば、大学卒業後直ちに警察庁に入庁し、旧郵政省や内閣官房での勤務も含め、今日まで三十年近く国家公務員として働いてきたので、結果としては「国家のために」勉強してきたとも言える（ただし、「明け暮れ学んだ」といえるほど勤勉ではなかったことは自白しておきます）。しかし、それは校歌の教えに忠実に従った結果、ということではなく、校歌の問いかけに触発されつつも、卒業後も自分なりに模索を重ねた末の選択であった。

先人は、将来の岐高生がいかなる結論に達するにせよ、学ぶことの目的について時流に流されることなく主体的に考え、多様な意見をぶつけ合ってほしいという思いを込めて、あの「反時代的」な歌詞を、メッセー

ジとして校歌に遺したのではなかったか。

「教育とは学校で習ったことを全て忘れた後に残っているとこのものである」と、アインシュタインはいう。私も教育（特に公教育）の本質は、知識や情報を詰め込むことではなく、公民教育、すなわち共同体の一員として成熟した市民を継続的に育成することにあると思う。

昨年、ハーバード大学の政治哲学の教授マイケル・サンデル氏の著書やNHKの番組が相当の難解さにもかかわらず大きな話題を呼んだのも、教育の中で正義や道徳的価値などについてもつと議論されるべきだと多くの人が感じていいるからではないかと思う。

高校生という一度しかない多感な季節は、人生の道筋に答えを出すには早すぎるが、考え始めるには相応しい時期である。少なくとも、そうした議論を青臭く熱く語ることは、空気を読むことにはばかり気を取られたり、我々世代の言葉で言えばシラけて醒めたふりをするよりは遙かに素晴らしいことだ。「何故？」という問い自体が、答え以上に大切だ。

真新しい校舎で、まもなく百歳を迎

える校歌を歌う後輩諸君には、単に自己利益のためではなく自己を超えた共同体の成員としての高い志をもって、自分の生きる価値がどこにあるか、大いに葛藤しながら考えてほしいと期待している。

（本稿執筆に当たり、お忙しい中、一面識もない私のメールでの質問に対して、快くご回答いただいた古川教頭先生には、誌面を借りて心より感謝を申し上げます。）

（追記）

本稿脱稿後の三月十一日、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故が発生した。犠牲になった方々、被災された方々に対し、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い事態の収束と被災地の復興を心より願わずにはいられない。

現在、私は大阪府警察本部警務部長（五月十六日付けで警察政策研究センターに異動）という警察組織の指揮官の一人として、府警から被災県への延べ二万人に及ぶ広域緊急援助隊等の派遣に携わっているほか、府警全職員から募った協力金により、食料等必需品すらままならない現地県

警職員のための支援物資を調達・搬送するなど、でき得る限りの支援活動を展開しているところである。危機管理を担う国家公務員として、この未曾有の危機に今後とも全力で対処することはもとより、住民の救助等に当たり職に殉じた多くの同僚職員のためにも、この震災や事故から汲み取られた貴重な教訓を必ずや活かし、より安全で安心な未来の日本の建設のため、微力を尽くしていきたい。なければならないと決意を新たにしている。

今こそ、国民すべてが「百折不撓」の精神を発揮する時である。

（四月二十日記）



岐高新聞

発行所 岐阜県岐阜市津島
〒500 岐阜市津島
電話 22-1111
代表者 岐阜県教育委員会
編集者 岐阜県教育委員会
印刷所 岐阜県印刷局

投	局
報	員
社	名
岐高新聞社	

二日間を楽しく

学校祭来たる

10月11・12日



行進隊の子による人形塔

マンネリを打破

〈学校祭準備委員会〉

本校の学校祭は、今年も10月11日、12日の二日間、津島運動場で盛大に行われる。準備委員会は、マンネリを打破し、新しい企画を盛り込んだ。行進隊は、人形塔、旗隊、吹奏隊など、多彩なパフォーマンスを披露する。また、各学年も、お祭り気分を盛り上げる企画を用意している。学校祭は、生徒にとって大切な行事であり、この機会に、仲間と協力し、楽しい思い出を作りたい。

学生とスポーツ

本校の学生は、スポーツに積極的に関与している。特に、サッカー、バスケットボール、野球などのチームスポーツが盛んである。また、個人スポーツとして、テニス、卓球、水泳なども人気がある。学校では、定期的な体育祭や、部活動を通じて、学生たちの体力向上とチームワークの育成を図っている。また、地域との交流も積極的に行っており、地域のスポーツイベントにも参加している。



伝統舞臺の学生発表

日頃の成果を

〈カッパ発表〉

本校の生徒は、日々の練習の成果を、カッパ発表で披露した。カッパは、本校の伝統的な文化であり、生徒たちは、この機会に、その魅力を多くの人に伝えることに努めた。発表は、観客の心を掴み、大きな反響を呼んだ。生徒たちは、この経験を通じて、自信と誇りを感じた。カッパ発表は、本校の特色であり、今後も大切にしていきたい。

記念座

本校の歴史を振り返ると、多くの思い出がある。特に、創立以来の伝統と文化が、今日まで受け継がれている。この記念座では、本校の歴史を詳しく紹介し、その意義を伝える。また、在校生や卒業生へのメッセージも掲載している。ぜひ、この機会に、本校の歴史を学び、誇りを持ってほしい。

校内見て歩き

本校の校舎や校庭、校舎内には、多くの見どころがある。この「校内見て歩き」では、校舎の歴史や、校庭の風景、校舎内の施設などを詳しく紹介する。また、在校生のインタビューも掲載している。ぜひ、この機会に、本校の魅力を堪能してほしい。

岐高祭の歴史

岐高祭の歴史は、本校の歴史と深く結びついている。最初は、単なる体育祭であったが、徐々に文化祭の要素も加わり、今日のような規模の学校祭へと発展した。この歴史を振り返ると、多くの思い出がある。特に、先輩から後輩へと受け継がれてきた伝統と文化が、今日まで受け継がれている。この機会に、岐高祭の歴史を詳しく紹介し、その意義を伝える。



勝った!!

野球部

本校の野球部は、今年も素晴らしい成績を挙げた。特に、決勝戦でライバル校を破り、優勝を果たした。この勝利は、選手たちの日々の練習の成果であり、チームワークの賜である。優勝を機に、選手たちは、今後の活躍を期している。また、観客も、選手たちの活躍を大いに応援した。この機会に、選手たちの活躍を詳しく紹介する。

一覽表

部	員
名	姓
一覽表	

岐高新聞

発行所
岐阜市大講道
岐阜市立誠徳高等学校
岐阜新聞社
編集責任者 西田 昭三
印刷 岐阜新聞社
電話 058-2311111

印刷所
岐阜市大講道
岐阜新聞社
電話 058-2311111

局員募集
岐阜新聞局

岐高祭のルーツを探る

【岐阜十勝】 岐高祭のルーツを探る。この祭りは、古くから行われてきた。その歴史は、何百年にもわたる。この祭りは、地域の文化を伝える重要な役割を果たしている。また、この祭りは、地域の発展を促す効果がある。この祭りを、これからも大切にしていきたい。

【岐阜十勝】 岐高祭のルーツを探る。この祭りは、古くから行われてきた。その歴史は、何百年にもわたる。この祭りは、地域の文化を伝える重要な役割を果たしている。また、この祭りは、地域の発展を促す効果がある。この祭りを、これからも大切にしていきたい。

【岐阜十勝】 岐高祭のルーツを探る。この祭りは、古くから行われてきた。その歴史は、何百年にもわたる。この祭りは、地域の文化を伝える重要な役割を果たしている。また、この祭りは、地域の発展を促す効果がある。この祭りを、これからも大切にしていきたい。

論説

部活動のすすめ

部活動は、学生にとって重要な役割を果たしている。部活動を通じて、学生は自己成長を遂げることができる。また、部活動は、学生同士の交流を促進する効果がある。部活動を、積極的に進めたい。

部活動は、学生にとって重要な役割を果たしている。部活動を通じて、学生は自己成長を遂げることができる。また、部活動は、学生同士の交流を促進する効果がある。部活動を、積極的に進めたい。



斜投影

昨日は今日の
斜投影
昨日は今日の斜投影。この写真は、斜投影の技法で撮影された。斜投影とは、物体を斜めに投影して撮影する技法のこと。この技法は、立体感を強調する効果がある。



昨日は今日の
斜投影
昨日は今日の斜投影。この写真は、斜投影の技法で撮影された。斜投影とは、物体を斜めに投影して撮影する技法のこと。この技法は、立体感を強調する効果がある。

昨日は今日の
斜投影
昨日は今日の斜投影。この写真は、斜投影の技法で撮影された。斜投影とは、物体を斜めに投影して撮影する技法のこと。この技法は、立体感を強調する効果がある。



岐阜市のカスミサンショウウオの成体と卵のう

は、カスミサンショウウオ（岐阜市貴重野生動植物指定種、岐阜県レッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類・環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ

自然科学部生物班

守れ！ふるちの
カスミサンショウウオ
保護活動と遺伝的多様性の解析

部長 岩田 亜美

岐阜高校自然科学部生物班では、岐阜県内に生息する身近な生物を主な研究対象として、一人一人がテーマを持ち、実際にフィールドに出て自分の眼で観察し、調査、研究、実験に励んでいます。また、調査・研究対象の生物の生息環境についても目を向け、生息地の保全についての提言をまとめたり、希少生物の保護活動にも取り組んでいます。現在で

類)の保護活動・遺伝的多様性の解析をメインの活動として展開し、地域の自然や環境を研究対象に地道な活動を続けています。

カスミサンショウウオの保護活動の始まりは二〇〇七年二月のことです。岐阜高校の生物室に岐阜市で保護された全てのカスミサンショウウオの卵や幼生が持ち込まれるようになりました。そのとき保護された卵のうち十一対で、カスミサンショウウオのメスは一度の産卵で一匹につき一対の卵のうを生むことから、当時メスは十数匹しかいなかったものと思われます。カスミサンショウウオについて調べ、さまざまな研究論文を読んでいくうちに、メスの個体数から、このままだと近い将来岐阜市のカスミサンショウウオは絶滅してしまうということがわかりました。

「このままでは岐阜県のカスミサンショウウオが危ない」。事態を重く見た当時の部員である先輩方が、カスミサンショウウオの保護に乗り出しました。

岐阜県では現在、岐阜市と揖斐川町の二カ所しかカスミサンショウウオの生息が確認されていません。保護活動をするにあたり、私たちは、生息状況の調査、産卵状況の確認から始めました。その結果、揖斐川町では産卵期における水涸れが深刻であること、そして岐阜市では個体数が非常に少なく、岐阜市の個体群は危機的な状況にあることがわかりました。そこで、揖斐川町ではゴミ拾い、遮水シートによる産卵池の設置

り付け、定期的に産卵状況の確認を行いました。小さい池のため、産卵に訪れた成体の調査は行いやすかったのですが、他に水場がないため、周辺のアカハライモリも全て集まってしまう、産卵された卵のうのほとんどがアカハライモリに食べられてしまいました。そこで、より大きな池の設置を検討しました。

などの生息環境の整備を行い、岐阜市では個体数の増加を目指して、卵のう、幼生の保護、飼育、放流等の活動を行ってきました。このほかにもマイクロチップによる個体識別や遺伝的多様性の分析などの基礎調査を行いました。

二〇〇九年二月中のすべての土日を利用して、遮水シートを使って三つの産卵池をつくりました。四月中旬に水涸れが発生し、我々が作った池が幼生の避難場所となり、サンショウウオの幼生達が生き残ることができました。その後の調査で順調に幼生が生育していたことから二〇〇九年はアカハライモリによる被害も減りました。

揖斐川町では、まず産卵期の水涸れを解消するために、二〇〇八年に産卵用に大型のバットを合計八箇所設置しました。バットの上部にはアライグマの被害を防ぐために網を取

岐阜市では大型の老齢個体しか発見されず、また、個体数が非常に少ないという危機的な状況にあったため、まず個体数を増やさなければならぬと考えました。成体になるまでに、最も死亡する可能性が高い幼生時の生存率を上げるため、保護した卵のう、および幼生を岐阜高校と岐阜県淡水魚園水族館アクアトギで変態直前まで飼育し、岐阜大学

応用生物科学部でツボカビ病の検査を行い、感染していないことを確認した後に捕獲した場所へ放流するという事業を二〇〇七年から始めています。二〇〇七年は四九八個体、二〇〇八年は一―二五個体、二〇〇九年は九七六個体二〇一〇年は一三四七個体を放流し、四年間で三九四六匹を放流しました。

昨年の調査で、捕獲された十八個体のうち六個体は頭胴長が五〇ミリメートル以下であったことから、二〇〇七年に放流され、成熟し繁殖に参加し始めた個体であると推測されます。また、卵のうち自体が小さく、中に含まれる卵が小さく卵数も少ない、若齢個体が産んだと思われる卵のうが六対半見つかりました。これは二〇〇七年に放流した雌個体が産んだものと思われれます。「三年前に放流した個体に戻ってきてくれた！」放流の成果が見られたことに、部員一同手を取り合って喜びました。

これらの活動は岐阜新聞や中日新聞に何度も取り上げられ、二〇一〇年四月二十六日発行の科学雑誌『ニュートン』(六月号)にも掲載されました。

また本校の卒業生である鵜飼研究



COP10会場にて、中根理記様とパネルを前に

所の中根理記所長様の計らいで、生物多様性条約第十回締結国会議(COP10)に合わせて名古屋市で開催された『生物多様性交流フェア』の会場に、岐阜高校自然科学部生物班のカスミサンショウウオの保護・研究活動をまとめたパネルを展示させていただき、世界各国の方々にも我々の活動を発信することができました。

希少生物の保全や、放流をする上で、遺伝的多様性に関する情報は極めて重要なものです。そこで保護活動の一環としてカスミサンショウウオの遺伝的多様性の解析をし、岐阜県内に生息す

る二個体群の遺伝的多様性の保有量と、それら二個体群の遺伝的分化の程度について調査しました。ミトコンドリアDNAのシフトロームb遺伝子の一部の塩基配列を解析し、その結果、岐阜市、揖斐川町の二個体群とも遺伝的多様性が高く、遺伝的距離は小さいことがわかりました。また、両個体群に特異的なハプロタイプ(遺伝子型)が検出された為、岐阜市、揖斐川町の両個体群はそれぞれ別の保全単位に属すると考えられます。

二〇一二年二月現在、昨年再捕獲された二〇〇七年に放流したものであると推測される若齢個体の血縁関係を調査中です。これからも放流事業が遺伝的多様性にどう関係しているのかを検証し、私たちの活動がカスミサンショウウオにどれほどの影響を与えているのかを調査していく予定です。

岐阜高校にカスミサンショウウオがやって来た四年前のあの日、私はまだ岐阜高校に入学しておらず、当時の先輩方がどんな思いでカスミサンショウウオの保護を決めたのか、詳しくは知りません。私が入学した当初三年生であった先輩方と過ごしたのは、半年にも満たない短い間でした

が、カスミサンショウウオに対する強い思いを感じました。「岐阜からカスミサンショウウオという種を失うわけにはいかない、自分達のできる最善を尽くしたい」。その一心で、顧問の高木雅紀先生をはじめ、地域の方や岐阜県地球環境課、岐阜市、揖斐川町などの行政、岐阜県河川環境研究所、岐阜県淡水魚園水族館アクアトトぎふ、京都大学、岐阜大学などの研究機関の協力のもと、放流事業を含めた保護活動をし、後輩である私たちがその思いと活動を受け継ぎ、現在にいたります。これからも現在の

遺伝的多様性の維持を目指した活動をしていきたいです。そして、私たちの後輩にも研究データやノウハウ、カスミサンショウウオに関する知識はもちろんのこと、先輩方や私たちの思いも受け継いでいってほしいです。先輩から手渡されたぼろになった記録ノート、その泥汚れのついたページを一枚一枚開くたびに私が感じたものを未来の後輩が感じられるように、今自分にできる最善を尽くしていこうと思います。カスミサンショウウオだけでなく、それを守ろうと立ち上がった先輩方の思いも守っていきたいです。

平成22年度

部活動だより

部活動試合結果等

体育系

部名	活動・試合結果など
野 球	第92回全国高校野球選手権岐阜大会 7月10日開会式
陸 上 競 技	県高校総体 男子 110mH 第4位 後藤(2年) 女子 800m 第4位、 1500m 第5位 河島(2年) やり投げ第2位、 砲丸投げ第2位 岩下(2年) (以上東海総体出場) 県春季陸上 男子 110mH 第6位 後藤(2年) 女子 800m 第2位、 1500m 第1位 河島(2年) 砲丸投げ第1位、第4位、 やり投げ第2位 岩下(2年)
サ ッ カ ー	県高校総体 ベスト8
バレーボール	県高校総体 男子ベスト16
バスケットボール	県高校総体 男子ベスト16
ソフトテニス	県高校総体 男子団体、個人、女子団体出場
バドミントン	県高校総体 男子団体 ベスト8 男子個人 出場
軟 式 野 球	県高校総体 出場
テ ニ ス 男 子	県高校総体 男子団体 ベスト8 男子ダブルス ベスト8
テ ニ ス 女 子	県高校総体 女子団体(村木・金田・鹿島・山崎・澤田) 準優勝 (東海総体出場) 女子ダブルス(村木・鹿島)3位 (東海総体出場) 全日本ジュニアテニス選手権大会県予選 U16女子シングルス ベスト8 鹿島(1年)(東海総体出場)
水 泳 競 技	県高校総体 男子 50m自由形8位、 100m自由形8位 木原(3年) 200m自由形5位 野田(3年) 400mリレー6位(澤田・田口・田口・木原) 800mリレー8位(津原・田口・田口・田口) 女子 100m7位 宮川(3年) 200m個人メドレー4位、 400m個人メドレー2位 吉澤(2年) 400m個人メドレー5位 並木(2年) 400mメドレーリレー8位 (並木・吉澤・宮川・津原) (以上東海総体出場)
卓 球	県高校総体 男子団体 出場 女子団体 ベスト8 女子ダブルス 出場(矢野・山田)ペア 女子シングルス 出場 矢野(2年)、山田(2年)
柔 道	県高校総体 男子団体 出場、女子団体 出場 男子個人 90kg級 3位 大橋(3年) 女子個人 出場
剣 道	県高校総体 男子団体 ベスト16 女子団体 出場 男子個人 出場 船戸(3年)、関谷(3年) 女子個人 出場 川瀬(3年)、尾籠(3年)
ハンドボール	新チームで県大会目指して活動中

局・その他

部名	活動・試合結果など
図 書	図書館でカウンター番や図書館だより「朝な夕な」の読書三昧」の作成、「図書情報」の発行をしています。この春、新入局員を迎え、20名で活動しています。
放 送	昼休みの校内放送、県高校放送コンテスト出場に向けた練習、学校行事での放送機器の準備と調整、放送担当などが主な活動です。昼休みの放送の充実と、放送コンテスト上位入賞を目標として活動しています。
家庭クラブ	6月9日伝統料理講習会を実施しました。

全国決定!! 囲碁部

囲碁部部长 伊藤寛之

私たち囲碁部は、幸運にも県大会の団体戦で優勝して、東京で行われる全国大会に進出することになりました。また、個人戦では1年生の大野君が3位入賞し、宮崎の総合文化祭に出場します。これも岐阜高校に囲碁部があったおかげです。



囲碁部は部員7名という小さな部活ですが、10名以上の料理部とともに6畳ほどの小部屋で活動しているので、環境は恵まれているとはいえません。この環境に耐えながら、毎日斬新な手法で囲碁に多面的にアプローチしています。現在は文化部なりに「熱く」なろうと努力しています。全国大会では、プレッシャーが小さい状態の中で、のびのびと気楽にプレイして、サッカー日本代表のように、日頃の成果を発揮したいと思います。

文化系

部名	活動・試合結果など
美 術	岐阜県美術展 青年部 入選 絵画の部 島平(2年) デザインの部 吉川(2年)
書 道	岐阜県美術展 青年部 優秀賞(小島、堀部、深見) 入選 18名
演 劇	7月の岐阜北地区演劇大会に向けて準備を進めています。今年度も新作脚本で、現在第一稿を全員で手直し中です。
音 楽	「熱く魂をゆきぶる音楽」をめざし、活動しています。限られた時間の中でいかに効率よく練習するかが課題です。個性豊かな仲間と音を紡ぐなかで多くの感動を体験できることは大きな喜びです。県高校野球開会式に大会歌を合唱。
文 芸	文化祭に発行する「Lotos11」に向けて、合同企画作品を作成しています。
茶 華 道	茶 道 裏千家の準教授の資格を持つ講師の方から週1回指導していただいています。 華 道 四季折々の名前を覚えながら、「華道別天門」の生け花を週一回学んでいます。
自 然 科 学	生物班 絶滅危惧種カスミサンショウウオ、ウシモツゴの保護活動等に取り組みしています。 化学班 ろうそくの燃焼と炎の大きさの関係について探究中です。 物理班 気体・液体・固体中の音速についての実験装置の開発と測定に取り組んでいます。
ESS-ディベート	スピーチコンテストに向けて活動しています。
調 理	岐阜祭のバザー一試作の検討中です。
写 真	第5回2010JPS展20歳以下部門 入選 松田(3年) 岐阜県美術展 青年部 優秀賞 加藤(3年) 入選 2名
囲碁将棋	第34回 全国高校囲碁選手権大会岐阜県大会 団体(大野・茶合・伊藤)優勝(全国大会出場) 個人(大野)3位(全国大会出場)
吹 奏 楽	8月8日(日)岐阜県吹奏楽コンクール高等学校A編成(大編成)の部出場に向けて猛練習をしています。
ク イ ズ 研 究	「全国高等学校クイズ選手権」に参加するほか、各種団体の主催する大会に参加しています。クイズの王道を目指すべく、日頃より実践的なトレーニング問題に地道に取り組んでいます。



部活動だより

平成22年度 部活動試合結果等

体育系	
部名	活動・試合結果など
硬式野球	第32回全国高等学校野球選手権大会岐阜大会 4回戦 岐阜0-4福岡県 ベスト16
陸上競技	遠征予備大会 男子 110mH 第8位 佐藤(2年) 女子 800m 第4位 河島(2年) 遠征新人大会 男子 200m 第0位 山本剛(1年) 110mH 第4位 佐藤(2年) 3000mRC 第4位 山崎(1年) 1500m 第1位 河島(2年) 3000m 第4位 河島(2年) 内丸俊 第2位 片岡(2年) 内丸俊 第2位 片岡(2年) 以上5名7種目兼東海新人出場 地区高校総体 男子 110mH 第2位 佐藤(2年) 女子 800m 第2位 河島(2年) 3000m 第2位 河島(2年) 内丸俊 第2位 片岡(2年) 内丸俊 第2位 片岡(2年)
サッカー	岐阜地区高等学校総合体育大会 準優勝 全国高校サッカー選手権大会ベスト16
バレーボール男	地区高校総体 1回戦 岐阜2-0羽鳥北 2回戦 岐阜0-2岐阜工 全日本バレー高校選手権大会 代表選決定戦 2回戦 岐阜1-2豊田
バレーボール女	岐阜校新人大会岐阜地区予選 1回戦 岐阜1-2岐阜聖徳 全日本バレー高校選手権大会 代表選決定戦 2回戦 岐阜0-2岐阜各務野
バスケットボール男子	地区高校総体 2回戦 岐阜30-55岐阜聖徳 3回戦 岐阜22-13岐阜聖徳 ベスト8 選抜大会 1回戦 岐阜58-104可児工
バスケットボール女子	地区高校総体 1回戦 岐阜42-88岐阜聖林 1回戦 岐阜30-40大田校 2回戦 岐阜58-82豊田
テニス男子	全国選抜高校テニス選手権 男子団体 ベスト8 新人大会 男子ダブルス 上西・小林組 ベスト8
テニス女子	新人大会 女子ダブルス 金田(2年)・森島(1年)組 第3位 トヨタジュニアテニス選手権大会 ベスト4 森島(1年)
ソフトテニス	岐阜校新人大会 男子団体 1回戦 岐阜2-1大田校東 2回戦 岐阜0-3中津 個人 若田・嶋田 2回戦進出 女子団体 1回戦 岐阜2-1大田校大 2回戦 岐阜0-3豊田 個人 花村・吉田 2回戦進出 山崎・北村・池田・武川出場
バドミントン	遠征バドミントン選手権大会(第2部) 女子2部5位 第3位 尾崎(2年) 岐阜校新人大会岐阜地区予選 男子団体 1回戦 岐阜1-3本巣校 5位決定戦 岐阜3-1富田 岐阜3-1各務原西 県大会出場 3位にて県大会出場決定 女子団体 1回戦 岐阜1-3岐阜北
水泳競技部	東海高校総体出場 男子 本番 50m自由形、100m自由形 野田 200m自由形 400mリレー、800mリレー 女子 200m個人メドレー、400m個人メドレー 野田 400m個人メドレー 400mメドレーリレー 岐阜校新人大会 女子 200m個人メドレー第4位 吉澤(2年) 女子 400m個人メドレー第1位 吉澤(2年) 女子 100m自由形第8位 吉澤(2年) 女子 200m自由形第4位 吉澤(2年) 女子 50m自由形第4位 尾崎(2年) 女子 100m自由形第5位 尾崎(2年) 女子 400m自由形第8位 西村(2年) 女子 400mリレー第6位 女子 400mメドレーリレー第6位
卓球	地区高校総体 女子団体 7位 東海予備選手権大会 男子ジュニア 4位(2年) 出場
軟式野球	第32回全国高等学校軟式野球選手権岐阜大会 1回戦 岐阜1-4多治見工 地区総体 1回戦 岐阜2-1岐阜聖徳 準優勝 岐阜2-3津南校 準優勝 岐阜校新人大会 進出4位 2回戦 岐阜7-0岐阜工 準優勝 岐阜0-4中津 3位決定戦 岐阜4-5X高城
剣道	第32回全国高等学校剣道大会 男子団体 1回戦 岐阜5-0八百津 2回戦 岐阜0-4西岐阜西 女子団体 1回戦 岐阜0-3美山西 第40回岐阜地区総体 男子団体 1回戦 岐阜0-3市橋南 女子団体 3位 第34回岐阜新人大会 男子団体 1回戦 岐阜0-2 豊田 女子団体 1回戦 岐阜0-3 岐阜聖徳
ハンドボール	遠征 岐阜県選手権 岐阜22-27各務原西 岐阜地区総体 1回戦 岐阜21-14岐阜聖林 2回戦 岐阜13-33富田 新人戦地区予選 1回戦 岐阜27-23岐阜北

文化系	
部名	活動・試合結果など
美術	第34回全国美術総合文化祭 美術・工芸美術部 賞状(1年) 岐阜校総合文化祭美術・工芸美術部 賞状(2年)
書道	遠征高校生書道展 団体 遠征地区優秀賞 個人 秀作賞 佐藤(3年)、藤部(2年)
演劇	第38回東海高校演劇連盟北地区大会 奨励賞
音楽	第30回岐阜県合唱コンクール シード団体 第32回全日本合唱コンクール中部支部大会「会賞」「工芸美術部優秀賞賞状」 第33回全日本合唱コンクール全国大会賞状「奨励賞」「岐阜県優秀賞賞状」 第37回岐阜県合唱コンクール岐阜県コンクール「会賞」 第37回全日本合唱コンクール東海北陸ブロックコンクール「奨励賞」 平成22年度 岐阜県高等学校総合文化祭 第1回岐阜県高等学校総合文化祭 「優秀賞賞状」受賞 平成22年度全国高等学校総合文化祭(岐阜大会)に岐阜県代表として出場決定。
写真部	岐阜県高等学校写真コンテスト 奨励賞 藤部(3年) 西村(2年) 岐阜県高等学校総合文化祭写真展 優秀賞 佐藤(2年) 奨励賞 浅野(1年) 井岡(2年) 西村(2年)
園芸・花緑	園芸 全国高校生園芸選手権大会 大野(1年) 蓮合(2年) 伊藤(3年) 出場 全国園芸総合文化祭 園芸部チームとして大野次郎(全国10位) 高知生のための園芸講座・園芸大会 Aプロダクション 岐阜(1年) 岐阜県立総合文化祭園芸部個人大会 個人3位 大野(1年) 第30回東海地区園芸選手権大会 団体戦(11月27日) 蓮合(2年) 大野(1年) 松本(1年) 2位 花緑 全国文化連盟園芸部個人大会個人大会 2位(全国大会出場)
文芸	第34回全国高校総体文学部大会 賞状大会文芸部門参加 山崎(3年) 平成22年度 岐阜市文芸祭参加 小畑・谷村 賞状(2年) 賞状(2年) 平成22年度文芸部交流会参加 平成22年度文芸コンクール ・部誌部門 第1位 Rume117 ・小説部門 第1位 2年 園田佳典「輝けの影は、影を、影る」
自然科学	生物学 ・日本動物学会中部支部総会シンポジウムにて「サレ」ふるさとのおスミサンショウウオ保護活動と遺伝的多様性の解析」のテーマで発表 ・日本動物学オリンピック2012につば大会 部メダル 小畑(3年) 2年連続 ・COP10生物多様性交流フェアにて「おスミサンショウウオ保護活動と遺伝的多様性の解析」のテーマで発表 ・平成22年度岐阜県高等学校総合文化祭第19回自然科学部活動研究発表会・交流会 優秀賞賞状「サレ」ふるさとのおスミサンショウウオ保護活動と遺伝的多様性の解析」のタイトルで、研究発表を行い、全県高校生20校の中から優秀賞賞状に選ばれ、本年年度の全県高等学校総合文化祭岐阜大会自然科学部部門の参加校として推薦されることが決定しました。 ・ACサイエンス大賞自然科学部部門(主催: 愛知工業大学、平成22年11月14日開催)「サレ」ふるさとのおスミサンショウウオ保護活動と遺伝的多様性の解析」のタイトルで、研究発表を行い、全県高校生20校の中から奨励賞(第4位)を受賞しました。 化学部 ・日本化学会東海支部高校化学研究発表大会 「金銀ナノイオンと配位子の錯体の構造について」について英語で発表「奨励賞」。「折鶴賞」を受賞 物理部 ・「コイルガンの原理とエネルギー効率」というテーマで研究、英文連合自然科学部活動研究発表会交流会で発表「奨励賞」を受賞。
IT/ディベート	ディベートとIT「第2回高校生英語エッセーコンテスト」 野内真 優勝賞状(1年)
クイズ研究部	第30回全国高等学校クイズ選手権 全国大会出場 第5回全国高校生全脳神経クイズ選手権大会大会出場
調理部	岐阜県では、グレープフルーツやレモンジュース、牛乳かんの組み合わせでよりおいしいデザートづくりを試験のうえ、最高のものができあがり、多くの人に楽しんでもらえました。
吹奏楽	岐阜県市郡楽コンクール 大編成の部 会賞

周・その他

部名	活動・試合結果など
図書	図書部でカウンター活動や図書部だより「部々なる図書三昧」の作成をしています。 12月に図書読書会、読書とフルーツのひととき、新春1月下旬にカルタ大会を開催します。
家庭クラブ	高校で「部ごらん」コンテスト 優秀賞 西澤(2年)、平野(2年) おふく生活発表会・おふく生活大会「おもてなし料理・菓子コンテスト」 入賞 志村(1年)、松岡(1年) 岐阜県おふく生活発表会(奨励賞 山崎(1年) 西(1年)) 文化祭では食育活動で5年もちを手作りし販売、山崎市長生活食育推進協議会の協力で食育講演を実施。 12月1日 食育講演会(岐阜県食育づくりの実践)と開閉録について

後期生徒会発足



佐藤 大志
副会長



森 開汰
会長

後期生徒会長 森 開汰
副会長 佐藤 大志
新発足3年、「新生徒会高校」として生まれ変わりつつある中で生徒会活動を活性化させるにはと、決意を固く感じています。
後期生徒会執行事は手探りながら、決の意に賛同するものが多く、その責任はたいへん重たいのですが、岐阜生全員が真に、生き生きと活動できる学校を目指して執行部メンバーが力を合わせて頑張っていこうと考えています。よろしくお願ひします。



部活動だより

平成22年度 部活動試合結果等

体育系	
部名	活動・試合結果など
陸上競技	男子 第1回東海高等学校連盟大会 第79位 女子 第2回東海高等学校連盟大会 第79位
サッカー	新人大会岐阜地区予選 予選リーグ 岐阜4-0岐阜 岐阜2-0岐阜 岐阜1-0岐阜北 岐阜3-1岐阜南 決勝 岐阜0-1岐阜北 (地区2位で県大会出場) 新人大大会 1回戦 岐阜1-0大垣東 2回戦 岐阜1-4大垣東 (県大会ベスト16)
バレーボール男子	新人大大会地区予選 岐阜2-0岐阜北 新人大大会 岐阜0-2中津川
バレーボール女子	新人大大会岐阜地区予選 1回戦 岐阜0-2各務原西
バスケボール男子	東海新人大大会地区予選 1回戦 岐阜64-56各務原 2回戦 岐阜50-34岐阜北 順位決定 8位 (県大会出場) 東海新人大大会 1回戦 岐阜60-30多治見 2回戦 岐阜50-161東濃加茂
バスケボール女子	東海新人大大会地区予選 1回戦 岐阜60-20岐阜東 2回戦 岐阜50-30岐阜北 3位 (県大会出場) 東海新人大大会 1回戦 岐阜43-74岐阜北
テニス女子	東海毎日ジュニアテニス選手権予選 U18女子ダブルス ベスト4 金田 (2年) 藤島 (1年) 組 U18女子シングルス 9位 藤島悠生 (1年) 東海大会出場
ソフトテニス	岐阜地区予選大会 男子 1回戦 山田-大野4-2岐阜北 2回戦 岐阜1-4岐阜南 女子 1回戦 山田-大野2-4岐阜南 2回戦 山田-大野0-4岐阜南 3回戦 山田-大野4-2岐阜南 3回戦 山田-大野0-4岐阜南
卓球	新人大大会 学校別対戦 地区大会 男子5位 (県大会出場) 女子2位 (県大会出場) 新人大大会県大会 男子 2回戦 岐阜0-3大垣 女子 2回戦 岐阜1-3関東工 全国大会個人戦、選手権会 山田 福徳 ベスト8入賞 第10回岐阜県高等学校選手権大会 女子シングルス 準優勝 山田 (2年)
剣道	第20回全国高校剣道連盟大会県予選 男子団体 2回戦 岐阜0-4藤原南 女子団体 1回戦 岐阜1-4中津
ハンドボール	東海新人大大会 1回戦 岐阜21-21岐阜東 日韓スポーツ交流 優秀選手賞 表彰 (1年)

文化系	
部名	活動・試合結果など
美術	本県市展覧会 奨励賞 野原 (2年) 岐阜市展覧会・岐阜県市展覧会・大垣市ジュニア展覧会 出品
音楽	東海新人大大会文化祭 音楽部 個人部門 優秀賞 深見 (2年) 岐阜市展覧会 青年の部 音楽部門 優秀賞 深見 (2年) 村瀬 (1年) 本県市展覧会 奨励賞 深見 (2年) 奨励賞 田中洋 (2年) 加藤 (2年) 佳作 橋本 (2年) 小川 (1年)
演劇	21年度東海高等学校文化祭演劇部門 岐阜北地区合同公演において 舞台発表賞
舞臺	岐阜演劇部発表賞 第21回ぎふフォーカスアンサンブルコンテスト まひな-にゅ (演奏) 「金賞」「岐阜県教育委員会賞」 「クラウン賞」(ジュニア・高校・ブリー部門総合優勝) せんべい屋 (文芸) 「金賞」 山田真実朗
写真部	岐阜市展覧会 (青年の部) 優秀賞 鈴木 (2年) 浅野 (1年)
園芸科	研修 全国高校新人大大会出場 大野 (1年)
文芸	3月発行の雑誌『Lemon 12』の制作のため、作品の執筆や互いの作品の批評会などの活動をしています。
英単語	英語選手権大会全国本部 学校単語エッセイ 優秀賞 本間 (3年) 第一賞 藤田 (3年) 矢野 (3年) 佳作 浅井 (3年) 関野 (3年)
自然科学	化学科 動物深埋から結晶が析出する時に容器の上部にも結晶ができる現象と塩基によるアミノ酸の加水分解についてそれぞれ研究中
E・J・J ディベート	岐阜演劇部 第10回高校生スピーチのつどい 特別賞 関田 (3年)
クイズ研究部	第5回 全国高校生総合経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園出場(準優勝) 藤田 (2年) 深見 (2年)
調理部	和洋中の料理やお菓子づくりに取り組み、基本的技術やその応用を習得と楽しく学んでいます
吹奏部	アンサンブルコンテスト 金賞 セクソフォン八重奏 中野日本ソロコンテスト県大会 サクソスの部 金賞(東海大会出場) 藤野(1年)(ピアノ伴奏 加治(1年))

局・その他

部名	活動・試合結果など
図書	図書部でカウンター自筆や図書帳だより「新たな本の発見3冊」の作成をしています。 12月に図書部講演会、読書とフルートのひととき、新年1月下旬にガム大会を開催しました。
家庭クラブ	県講師・講師の理科コンクール 優良賞 奥 (1年) 岐阜県中学校図書部で1年生全員が作成した「点字図書案内カード」を制作し、中学校生徒と交流しました。
ゴルフ	第34回 中部高校ゴルフ春季岐阜地区予選 優勝 吉原 (1年) 3月16日から3日連続にて中部高校選手権春季大会に出場決定

第5回全国高校生金融経済クイズ選手権

「エコノミクス甲子園」全国大会、準優勝!!

クイズ研究部部長の2年5組津田拓也君と副部長の2年8組深見研太郎君が、平成23年2月11日(金)～13日(日)、東京六本木ヒルズ内パソナホールで開催された「エコノミクス甲子園」全国大会に出場し、見事準優勝をとげた。この大会はまだ回数こそ5回と少ないが、ラサール高校2回、開成高校、東大寺学園高校そして今回、東海高校と、名だたる中高一貫私立高校が優勝をとげ、ハイレベルな戦いが展開される選手権である。

2人は「準優勝出来るとは思わなかった。今もあまり実感がない。部としてはずっと東海大会には参加していたが、名大附属高校が強くて全国出場が阻まれていたが、全国大会出場の日標を果たせて良かった。」とが「全国大会での出題形式が自分に合っていて、また自分の得意分野からの出題だったので勝ちかけた。東海高校は全国大会出場の常連校で、『今年こそは優勝するぞ。』という意気込みで臨んでおり、力の入れようが凄かった。』などと大会での戦いぶりについて話してくれた。そして最後に「今回は全国大会出場の日標を果たせた。来年は僕たちは参加できないので、後輩には是非、優勝を狙って欲しい。」と、部活の後輩に夢を託した。



最前列の左から津田拓也君、深見研太郎君

音楽部 第13回 演奏会

期と き/平成23年3月21日(月・祝) 14:00開演(13:30開場) **入場無料**

期と ころ/サランカホール

I部 第63回全日本合唱コンクール全国大会

「金賞」(兵庫県教育委員会)受賞報告演奏

II部 「くちびるに歌を」

III部 たのしいコーラス

IV部 混声合唱とピアノのための「新しい歌」(2台ピアノ版)



吹奏楽部 第6回 定期演奏会

期と き/平成23年3月20日(日) 13:30開演(13:00開場) **入場無料**

期と ころ/羽黒市文化センター 大ホール

曲 目/「スウィーニー・ボー」 「愛の朝顔」 「ハリウッド(賢者の石)」

「千と千尋の神隠し」メドレー「また君に恋してる」他

創立140周年記念式典・記念事業について

平成25年に創立140年を迎えるにあたり、岐阜高校では平成25年11月に140周年記念式典・記念事業を以下のように計画(案)していますので、ご協力をお願いいたします。

案

実施時期：平成25年11月上旬(11月4日の創立記念日の頃)

実行委員会：平成23年4月立ち上げ 同窓会、PTA、学校による構成

記念事業

- ① 新校舎空調設備費用支援(既に平成22年に設置していただきました)
- ② 例年の芸術鑑賞、または文化講演会等と兼ねる形で記念行事を行う。
- ③ 記念誌発行(130周年レベルのものを作成する)
- ④ 新体育館緞帳、演台等の整備(平成25年11月までに整備予定)
- ⑤ 同窓会名簿の発行

* 記念式典・記念事業等の詳細については、実行委員会にて検討していく予定です。

岐阜高校創立140周年式典・記念事業実行委員会



岐阜高校同窓会アトラクションプログラム

雅楽演奏

テーマ

天地悠久
よみがえり

演奏：多度大社雅楽会、龍笛独奏 桃井喜邦（昭和五十三年卒）

演目

〔第一部〕龍笛 独奏

スタジオジブリより「もののけ姫」「きみをのせて」

〔第二部〕三管合奏（箏・篳篥・龍笛・笙）

平調 越殿楽

平調 皇麁急

〔第三部〕舞楽

「納曾利」南都楽所（男一人舞）より抜粋

高麗楽 壺越調

〔出演者プロフィール〕

北伊勢大神宮 多度大社 雅楽会

桃井喜邦（昭和五十三年卒）

皇學館大学文学部神道学科卒、今回、同窓会初めての参加です。



祝 岐阜高校同窓会総会



サンマル 岐高30会 GOLF CLUB

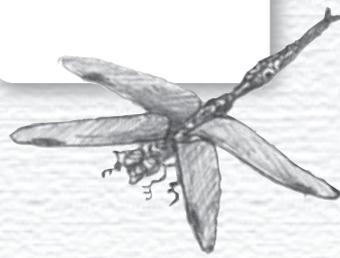
岐高30会は、元気なゴルフメンバー参加歓迎します！

世話人代表／山口憲一
お手伝い／後藤康彦・清水雅彦
連絡先／(058)252-1526(後藤人形)

平成23年度 大学合格者数(浪人含)

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
北海道大	2	高崎経済大	1	金沢工業大	6
東北大	2	首都大東京	1	朝日大	3
筑波大	3	金沢美術工芸大	1	岐阜聖徳学園大	7
埼玉大	2	福井県立大	1	岐阜医療科学大	1
千葉大	1	岐阜県立看護大	1	愛知大	8
東京海洋大	2	岐阜薬大	9	愛知医大	5
お茶の水女子大	1	愛知県立大	2	愛知学院大	1
電気通信大	1	名古屋市立大	12	愛知淑徳大	6
東京大	10	京都府立医大	2	金城学院大	6
東京医歯大	1	大阪府立大	1	椋山女学園大	1
東京外大	8	神戸市外大	1	中京大	14
東京学芸大	1	自治医大	1	中部大	1
東京芸大	2	青山学院大	7	豊田工業大	3
東京工業大	5	学習院大	2	名古屋外大	2
東京農工大	2	北里大	4	名古屋芸大	1
一橋大	2	慶応義塾大	34	南山大	85
横浜国立大	5	国際基督教大	1	藤田保健衛生大	13
富山大	2	芝浦工大	3	名城大	36
金沢大	10	順天堂大	1	日赤豊田看護大	1
福井大	2	上智大	5	長浜バイオ大	1
信州大	5	昭和大	1	京都外大	1
岐阜大	35	拓殖大	1	京都女子大	2
静岡大	3	中央大	27	京都薬大	6
愛知教育大	3	津田塾大	1	同志社大	93
名古屋大	46	東海大	2	同志社女子大	8
名古屋工業大	8	東京慈恵会医大	1	立命館大	101
三重大	3	東京女子大	1	大阪医大	1
滋賀大	3	東京農大	2	関西大	7
滋賀医大	1	東京理大	34	関西外大	1
京都大	24	日本大	6	近畿大	3
京都工芸繊維大	2	日本医大	1	関西学院大	12
大阪大	17	日本女子大	1	神戸女子大	1
神戸大	4	法政大	10	天理大	2
奈良女子大	1	星薬大	1	産業医大	1
鳥取大	1	東京都市大	1	防衛医科大学校	2
広島大	3	明治大	28	防衛大学校	4
大分大	1	立教大	9		
鹿児島大	1	早稲田大	51		

平成23年度
出席者名簿



平成二十三年度総会出席者名簿

●来賓

恩師

昭和17年卒

昭和23年卒

昭和24年卒

昭和29年卒

昭和31年卒

昭和34年卒

岐阜県知事

伊藤 秀幸

信田 秀明

森 俊治

川島 千夜子

清水 外治

山口 憲一

葛西 孝子

古田 肇

小野木 正

塚原 史朗

安井 孝

林 正憲

渡辺 イキ子

渡辺 邦雄

金山 良典

岐阜市長

近松 隆夫

安部 源平

加藤 佳子

加藤 佳子

安江 紀子

渡辺 紀子

金山 良典

細江 茂光

小邑 政明

井戸 豊彦

近松 隆夫

杉山 慶子

渡辺 イキ子

浅野 宗平

亀山 美代子

衆議院議員

小林 達夫

栗野 道男

昭和24年卒

森 愛子

岡田 直美

小塩 敦子

阪本 満子

柴橋 正直

佐口 修一

高賀 登

村橋 敏博

上田 三恵子

木村 繁夫

加藤 公子

清水 恵美子

旧藍水くらぶ会長

日比野 安平

富成 侑彦

昭和14年卒

坪内 厚嗟子

後藤 澄子

松岡 弘志

西澤 恭平

村瀬 喜代子

森 俊勝

服部 準之助

昭和14年卒

平光 菊子

後藤 康彦

松島 清子

松久 弘子

在京同窓会会長

吉田 豊

松尾 正寿

村瀬 喜代子

眞鍋 和子

志知 毅

横山 和永

森 一是

宮本 悠美子

昭和9年卒

昭和20年卒

昭和20年卒

山田 弘子

清水 雅彦

昭和32年卒

吉田 夏子

岐阜高校校長

坂井 熙

伊藤 良治

加納 和子

昭和26年卒

高井 哲

清水 勝

昭和34年卒

鹿野 孝紀

昭和13年卒

川島 恒夫

葛野 道子

米山 宣子

高田 峰子

林 伸好

伊藤 純代

信田 義朗

榊原 和彦

栗本 照子

後藤 伸子

竹腰 洋子

林 博司

伊東 英子

守屋 政春

清水 二郎

鈴木 隆子

昭和27年卒

内藤 貞子

昭和33年卒

小川 弘

杉山 幹夫

高橋 節子

高橋 節子

今尾 みきへ

長井 教子

井藤 智美

加藤 雅子

昭和15年卒

高木 嘉昌

丹羽 君子

国島 忠雄

長房 香代子

岩田 金治

金武 和彦

翠 忠明

高橋 重郎

船橋 れい子

布目 絢子

榎並 敬

小島 秀俊

袁島 定子

昭和29年卒

真野 なを子

大野 通

守屋 繁子

浅野 暁子

水崎 恭子

大脇 聖子

山田 芳子

小川 斉

森下 達朗

岡崎 彬

熊崎 明世

熊崎 明世

矢井 正直

長村 庄太郎

清水 外治

高橋 笑子

山口 憲一

片野 康彦

川島 千夜子

高橋 笑子

山田 せき子

片野 康彦

林 正憲

安江 紀子

渡辺 邦雄

金山 良典

加藤 佳子

渡辺 イキ子

昭和31年卒

加納 美智子

杉山 慶子

渡辺 イキ子

浅野 宗平

亀山 美代子

西垣 節子

昭和30年卒

江崎 攝

国島 みどり

森 愛子

岡田 直美

小塩 敦子

阪本 満子

上田 三恵子

木村 繁夫

加藤 公子

清水 恵美子

遠藤 允子

桑原 由忠

野々垣 孝

高安 義英

坪内 厚嗟子

後藤 澄子

松岡 弘志

西澤 恭平

平光 菊子

後藤 康彦

松島 清子

松久 弘子

福井 みのり

佐藤 孝一

水野 武彦

水元 加代子

眞鍋 和子

志知 毅

横山 和永

森 一是

山田 弘子

清水 雅彦

昭和32年卒

吉田 夏子

昭和26年卒

高井 哲

清水 勝

昭和34年卒

米山 宣子

竹腰 洋子

林 博司

伊東 英子

後藤 伸子

榊原 和彦

昭和33年卒

小川 弘

鈴木 隆子

高橋 節子

井藤 智美

加藤 雅子

高橋 節子

丹羽 君子

岩田 金治

金武 和彦

今尾 みきへ

長井 教子

井藤 智美

加藤 雅子

昭和27年卒

内藤 貞子

昭和33年卒

小川 弘

高橋 節子

丹羽 君子

岩田 金治

金武 和彦

船橋 れい子

布目 絢子

榎並 敬

小島 秀俊

堀 英子	久松 純一郎	早矢仕 直彦	関谷 啓子	鷺見 博信	木村 容子	木方 伸一郎	昭和46年卒	和田 光正	山口 温朗	宮川 俊博	松田 英文	松井 秀樹	堀部 ひろみ	堀野 悦子	星屋 秀幸	船戸 忠幸	平田 良三	信下 三幸	野田 まみ子	竹中 正子	下野 信重	酒井 良久	小池 香代	桑原 眞次郎	菊田 千枝子		
神谷 真弓子	大野 暢宏	伊藤 武	昭和51年卒		松波 英寿	大倉 光弘	伊井 和彦	昭和50年卒	南谷 清司	早矢仕 昭	橋詰 芳範	杉山 正裕	恩田 一光	梅沢 敏郎	昭和49年卒	蓑島 伸生	細江 由喜子	服部 哲明	坂井田 勉	昭和48年卒		若園 重雄	後藤 寿彦	昭と47年卒			
小野田 志津代	奥田 孝	江良 寿泰	内田 篤	上松 憲	上田 雄三郎	稲葉 真治	市川 篤丸	石原 佳洋	井口 浩治	伊神 清隆	足立 多光夫	浅野 涉	合田 久美子	昭和53年卒	松野 みどり	古田 万紀	平光 恵美子	久松 明美	中山 真紀	豊田 哲也	高橋 弘子	関谷 賢市	鈴木 智子	石博 一博	東 真人	昭和52年卒	
竹中 浩一	武重 克幸	高橋 美由紀	高橋 研二	角 智明	鈴木 博明	城 信行	白木 淳子	清水 淳子	柴田 直樹	篠田 素子	篠田 俊哉	篠田 圭司	篠田 圭司	鹿野 智美	酒向 隆	近藤 幸夫	小林 みち子	香田 和宏	桑原 りか	喜田 敏浩	神部 剛敬	河村 健雄	川合 智明	川谷 悦利	加藤 仁	小原 義光	
松浦 美幸	松井 千昭	正村 仁	細江 昌樹	藤本 綾子	福生 幸江	平野 稔昭	平岡 美穂	平井 克昭	林 誠人	林 千鶴子	早川 博一	羽田野 貴嗣	長谷 善年	羽賀 元久	野原 正行	丹羽 秀政	中村 治人	中村 繁	仲野 里美	永田 俊哉	永田 知里	中風 明世	中石 俊哉	谷口 鶴恵	棚橋 毅	田中 美志	田中 眞理子
服部 弘典	昭和58年卒	松岡 正人	昭和57年卒		北村 多佳子	昭和56年卒			村橋 祥衣	平野 貴子	中村 賢二	杉山 文康	川尻 智子	大野 通敏	昭和54年卒	和田 恭治	和田 隆	吉田 万里子	横山 義孝	安田 貴彦	安井 典子	森 久修	桃井 喜邦	宮島 雅広	三戸 仁美	水谷 令子	
川島 典子	河口 直樹	勝村 健司	片桐 実穂	大前 寛	大野 泰良	遠藤 寛治	江崎 規員	宇留野 尊広	岩田 幸子	岩井 邦子	井上 裕子	井上 祐一	井上 直子	稲川 剛史	伊藤 俊彦	市原 朱美	和泉 智子	飯田 豊	浅野 陽子	昭和63年卒		武藤 孝	古田 志乃雅	早川 悟史	橋本 明子	昭和62年卒	
戸崎 慎太郎	東明 裕	寺村 建一郎	土屋 知沙杜	土田 健治	辻 洋介	棚橋 弘成	竹内 昌弘	高橋 美奈子	高橋 誠治	高橋 邦昭	高崎 敬治	園田 理	住田 由規梅	鈴木 純子	杉山 範子	佐々木 ひとみ	境田 英樹	後藤 直子	小島 恵理	栗本 興治	木村 比登史	木村 真也	木下 知穂	河村 な緒子	川出 暁子	河田 里美	

総会出席名簿

山口 純子	山岸 直子	安江 悦子	矢倉 暁子	森屋 泰則	森野 杏子	村山 達哉	向井 強	宮崎 雅英	松村 伸子	松原 聡子	松井 敦子	正木 美穂子	堀 美鳥	藤井 理栄	平田 裕子	番 有里	林 秀樹	服部 美保	野下 えみ	丹羽 義明	中田 良成	中島 英雄	中川 貴美子	長尾 博	豊田 英里名	戸田 早映子
稲垣 有介	平成11年卒		柴橋 正直	平成10年卒		森島 祥哉	林 達秀	濱野 正嗣	橋本 忠士	平成3年卒		山田 ゆう子	森嶋 将隆	馬場 美穂	長谷川 浩嗣	寺沢 真一	坂井 潔	平成元年卒		渡辺 未砂緒	鷺巣 崇子	若原 伸行	吉村 和博	横山 有見子	横幕 弘亘	山田 俊郎
																					米光 正絵	平成15年卒			高橋 清孝	平成13年卒
																								藤川 貴雄		

岐阜県立岐阜高等学校 校歌

作詞 松平 幹

作曲 伊藤宗治



世 じんのたけさ んかざん ひゃくりのみずな がらがわ
が かいのなみ あらくとも きぼうのきしと おくとも



かよりのけんじ ここにうまれてこっかのためにあげくれまなぶ
かよりのけんじ こころおおしくひやくせつふとうつとめてやまず



ふ るへ ふ るへ ほこるさけこのれきしある わがこーこーの



ほこるさけ あげよ も るびと も るとも 一 に

千校の嶽	金峯山
百聖の水	長良川
善徳の健児	ここに生まれて
園家の為	明け暮れ学ぶ
学海の波	荒くとも
希望の年	遠くとも
善徳の健児	心雄々しく
百折不撓	つとめて止まず
奮へ	奮へ
誇る最古の	歴史ある
我が高校の	譽れをば
挙げよ諸人	諸共に

岐高女校歌

一 ああすのらみ国榮ゆらみ代に
われら処女 生れあひたる幸
胸の鏡と 日々にあふく
教への道へ 勅語

二 見よ稲葉山の 姿は高し
われら処女 高く心を保たじ
国の御為に 人の為に
力のかきり つくさはや

三 きけ長良川の瀬の音は清し
われら処女 清く心もみかこじ
はけみいそしみ探かたく
明るき微笑 うつくしく

姫小松

一 学びの庭の 姫小松
千代の襟に たく（つ）
種もしその日のわくろりきね
いとや祝わん 諸共に

二 恵みのつゆに うらおいし
みとりゆわき 姫小松
いよよますまきしけし
千代に八十年代にせかもちん

聖水くらぶ

高木 あい華

姫小松(創立記念日の歌)

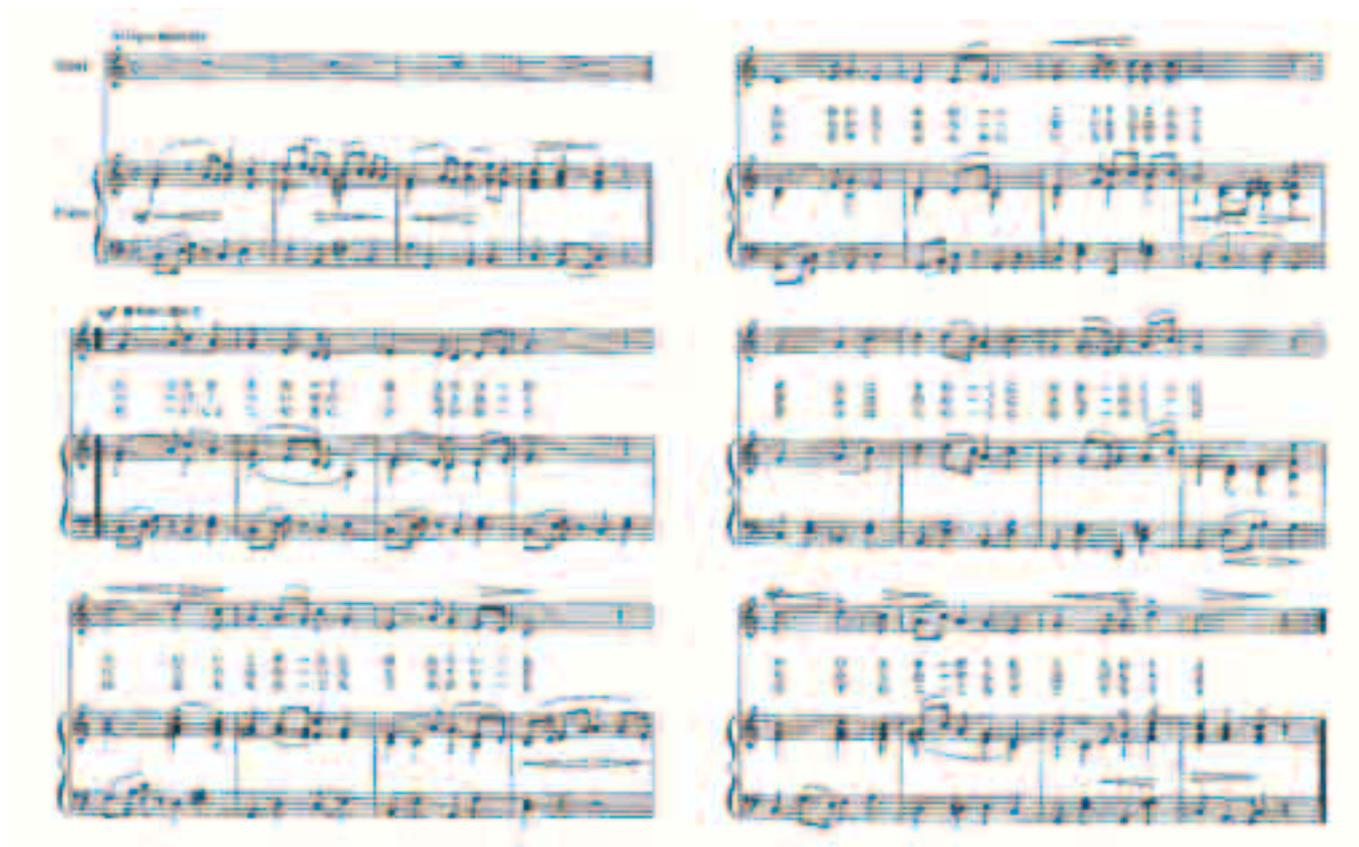
Musical notation for '姫小松(創立記念日の歌)' in G major, 4/4 time. The score consists of three staves of music with lyrics written below the notes.

岐高女 校歌

Musical notation for '岐高女 校歌' in G major, 4/4 time. The score consists of three staves of music with lyrics written below the notes.

岐 阜 県 民 の 歌

作 詞 永 縄 半 助
作 編 曲 服 部 正



岐阜県民の歌

- 一、みどりをそめて 朝の日が
高い梢に ゆれている
嶺から嶺へ 小鳥もよんで
岐阜は木の国 山の国
伸びる希望を うたおうよ
- 二、つづく平野の 雲遠く
虹のいろ もえている
村から街へ 生気に映えて
岐阜は野の国 幸の国
力むすんで はげもうよ
- 三、名所史蹟に 風かおり
花もみじも 鶉かがりも
かがやく文化に 色そえながら
岐阜は詩の国 水の国
はずむ心で 進もうよ



ぎふ清流国体・ぎふ清流大会ソング

はばたけ、未来へ



作詞・作曲：古川 今（補作詞：小島 紀夫）
編曲：沢田 完

輝け はばたけ だれもが主役
あの風によって 翼ひろげよう
輝け はばたけ だれもが主役
キラキラと光る 未来に飛びたとう

1)晴れわたる日にも 曇る夜にも
空に描いた あの夢は
だいじょうぶだよ 見てごらん空を
あすを 信じて さあゆこう
離れば ふるさとはほら
優しく笑うと ミナモが語る
その手に 勇気と 心に愛を
いま空を翔る あなたが最高
輝け はばたけ だれもが主役
キラキラと光る 未来に飛びたとう

2)清らかな流れ 見つめて置った
水に染めく あの夢は
だいじょうぶだよ 見てごらん空を
虹を 架けるよ さあゆこう
耳をすませば ふるさとはほら
応援していると ミナモが歌う
その手に 勇気と 心に愛を
いま空を翔る あなたが最高
輝け はばたけ だれもが主役
キラキラと光る 未来に飛びたとう

輝け はばたけ あなたが主役
あの風によって 翼ひろげよう
輝け はばたけ だれもが主役
キラキラと光る 未来に飛びたとう
Ah-GIFT FOR YOU
Ah-GIFT FOR YOU



2012 ぎふ清流国体

輝け はばたけ だれもが主役

第67回国民体育大会

冬季競技会：スピードスケート2012年1月28日(土)～1月31日(火)
スキー 2012年2月14日(火)～2月17日(金)
本大会：2012年9月29日(土)～10月9日(火)



2012 ぎふ清流大会

輝け はばたけ だれもが主役

第12回全国障害者スポーツ大会

会期：2012年10月13日(土)～10月15日(月)

平成23年度 岐阜高校同窓会総会運営委員会委員名簿

担当部門	卒年	氏 名				
運営委員長	43年	高井 直樹				
運営副委員長	43年	棚橋 鋭市朗	日比野 広子	瀬川 順子		
	53年	市川 篤丸				
	63年	鈴木 豊	東明 裕			
事務局	44年	信下 三幸				
総務部	43年	◎形見 武男	棚橋 鋭市朗	成瀬 臣子	日比野 広子	瀬川 順子
	53年	酒向 隆	香田 和宏	石原 佳洋	平井 克昭	宮島 雅広
		市川 篤丸				
	63年	山岸 直子	川島 典子			
財務部	43年	◎高田 拾忠				
	53年	江良 寿泰	羽賀 上地	羽賀 桂子		
	63年	長尾 博				
監査	43年	金田 陽子	長縄 幸子			
会報部	43年	近藤 孝子	伊藤 壽	武藤 正博	奥長 さゆり	
	53年	◎中風 明世	喜田 敏浩	永田 知里	藤本 綾子	小林 みち子
	63年	○鈴木 豊	辻 洋介			
広告部	43年	◎杉山 恵子	那須 真理子	下野 正稔	鎌倉 充夫	山田 貴明
		広瀬 英二	加藤 範夫	加藤 章	青木 広久	
	53年	○羽田野 貴嗣	小原 義光	長谷 善年	篠田 圭司	改田 哲
		荻谷 悦利	奥田 孝	神部 剛敬	中石 俊哉	
	63年	寺村 建一郎	東明 裕			
動員部	43年	○西部 啓司	伊藤 晋文	伊藤 房吉	中村 みぎ	
	53年	◎吉田 万里子	安井 典子	高橋 美由紀	早川 博一	川口 順敬
		加藤 仁	篠田 圭司	正村 仁	田中 美志	松井 千昭
		田中 真理子	篠田 素子			
63年	井上 祐一	辻 洋介	宇留野 尊広			
在京動員	43年	◎日比 祥博	岩間 憲三	村瀬 美千衣		
	53年	原田 淳志	近藤 幸夫	小野田 志津代		
会場部	43年	◎田中 寿	小川 順子	鷺見 守昭	長谷川 比登美	名田 晋三
		高原 康光	藤澤 滋人	森 益男	三木 慶次郎	松井 宮子
		野々村 文雄				
	53年	○伊神 清隆	和田 恭治	桃井 喜邦	太田 康朗	谷口 鶴恵
		清水 淳子	上野 俊和	井口 浩治	棚橋 毅	渡辺 千春
		内田 篤	野々垣 裕治			
	63年	後藤 由香子	岩井 邦子	岩田 幸子	戸田 早映子	

◎部長 ○副部長

編集後記

東日本大震災により、甚大な被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

―平成二十三年度 岐阜高校同窓会総会会報編集の御礼―

今年度の総会のサブタイトル、「未来へのプロムナード」をそのまま会報編集のコンセプトにしました。読みやすく、明るく楽しい誌面にしようと、部員一丸となって制作しました。

特に、新校舎完成にあたって、巻頭カラーページで、特集「新校舎ルポ」を企画いたしました。どこからも日のある新校舎内外のルポは、OBの驚きの声と現役高校生の明るい声を聞きながら、とても楽しく取材することができました。少しでも、私たちの感動が伝わればと願っています。

挨拶、恩師・同窓生の寄稿、コラム、在京同窓会だよりなどに、こころのこもった原稿を寄せていただきました皆様、ありがとうございました。特集ページを作るにあたってご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。多大なご協力をいただきました岐阜高校の前校長先生、現校長先生、多くの資料を揃えていただきました担当の先生、ありがとうございました。そして、サンメッセ(印刷)の敏腕ディレクター(岐阜OB)とデザイナーにも大変お世話になりました。総会に参加していただいた同窓生、いらっしやらなかった同窓生全ての皆様、とにかく岐高を愛する皆様に、会報部一同、心から御礼申し上げます。

皆様には健康にご留意いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

同窓会総会運営委員会 会報部一同

▽広告ご協賛の

御礼

平成二十三年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報の発行に際し、広告のご協賛を賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上原則的に広告スペース別の五十音順となっております。何卒ご了承下さいます様よろしくお願い申し上げます。

平成二十三年六月十二日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
平成二十二年総会運営委員会
運営委員長 高井 直樹